

理化日記

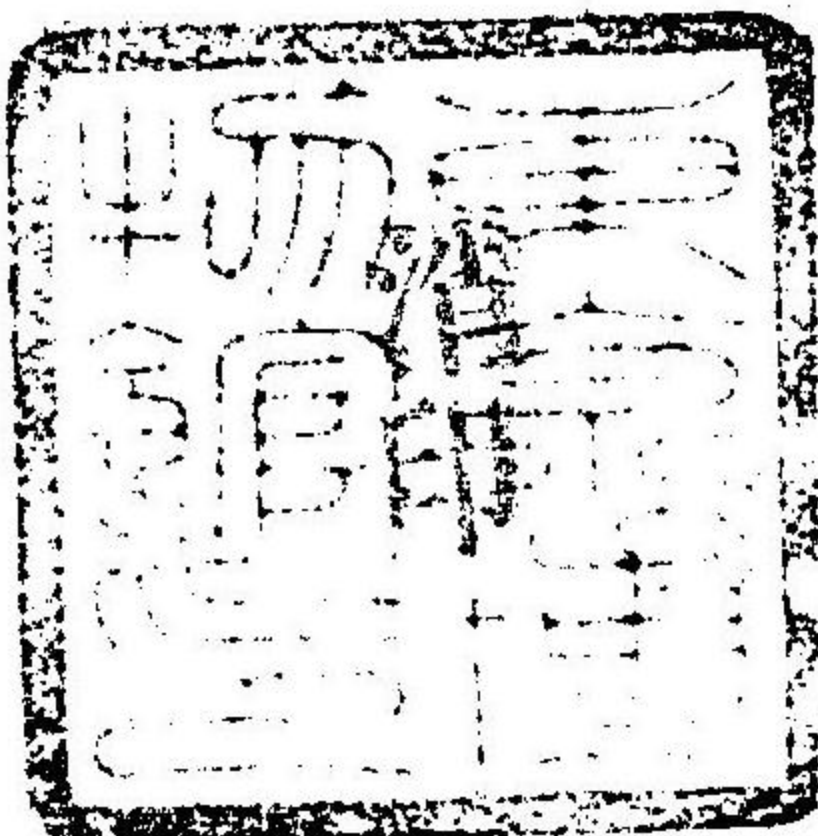
二編

十二

特 37
336
廿冊
廿四
三
亨

60
4
6

交付



明治九年五月十日

物館 鼓賞

理化日記二編卷之十二 窮理之部

日耳曼國 リッテル氏 コ授

目交第 第九十五回

凡視ルコトハ視神經ニ感動ヲ起スニ因ルナリ
 神經全ク靜ニシテ動カサレハ暗晦ノ感ヲナ
 反シテ動テ靜ナラサレハ光明ノ感ヲ覺ユ
 通常此神經ニ感動ヲ起サシムルモノハ光
 ト雖又他ニ此作用ヲナスモノアリ乃目
 指ヲ以テ強ク之ヲ壓セハ眼中光ノ閃クカ

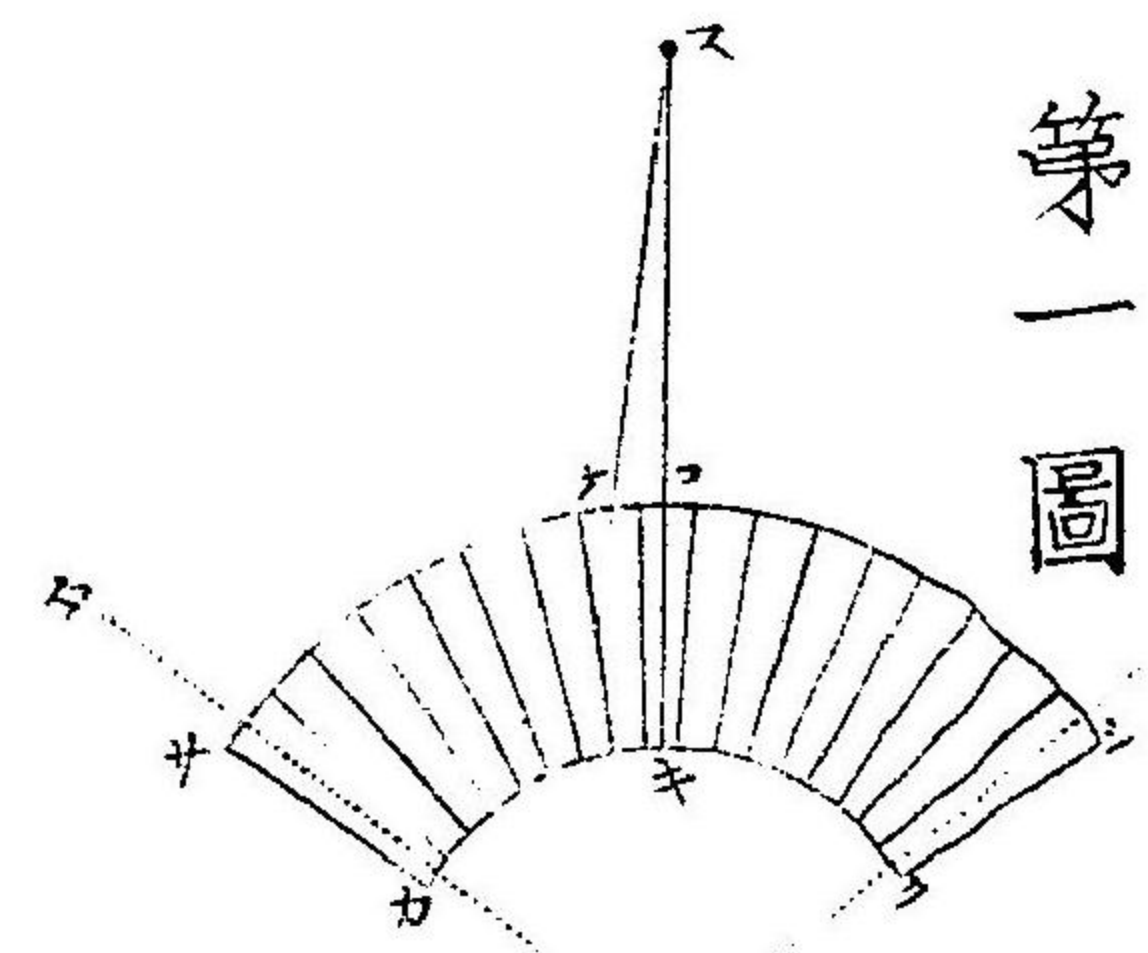
理化日記二編卷之十二 一 窮理之部

類物理
 屬
 冊二十四
 函十四
 大正四年

如キヲ覺ヘ又血液ノ常度ヲ失ヒ或ハ目ヲ塞キテ
 弱キ電氣ノ肩邊ニ通スルモ亦然ルカ如シ然シ外
 物ヲ視テ之ヲ識別スルハ唯神經ノミニテ足レリ
 トスヘカラス乃物体各點ヨリ發スル所ノ光線ヲ
 分チ各々別々ニ神經上ニ落テテ其肖像ヲ映スル
 ノ設ケヲ要スルナリ通常此設ケヲ為スニ天然ニ
 出ルモノ二種アリ一ハ「モザイク」一ハ「レン」ナリ
 「モザイク」ノ眼ハ等級低動物殊ニ無血ノ小虫等多
 ク之ヲ具フ乃視神經ノ端末散布シテ凸ノ面ヲナ
 ス「第一圖」ノ「カキ」ノ如シ之ヲ網膜ト云フ其上ニ

「ケコ」等ノ如ク多クノ透明小圓錐聚マリテ束子メ
 ル如ク又透明ノ膜ヲ以テ其外面「サシ」ヲ覆フ之ヲ

第一圖



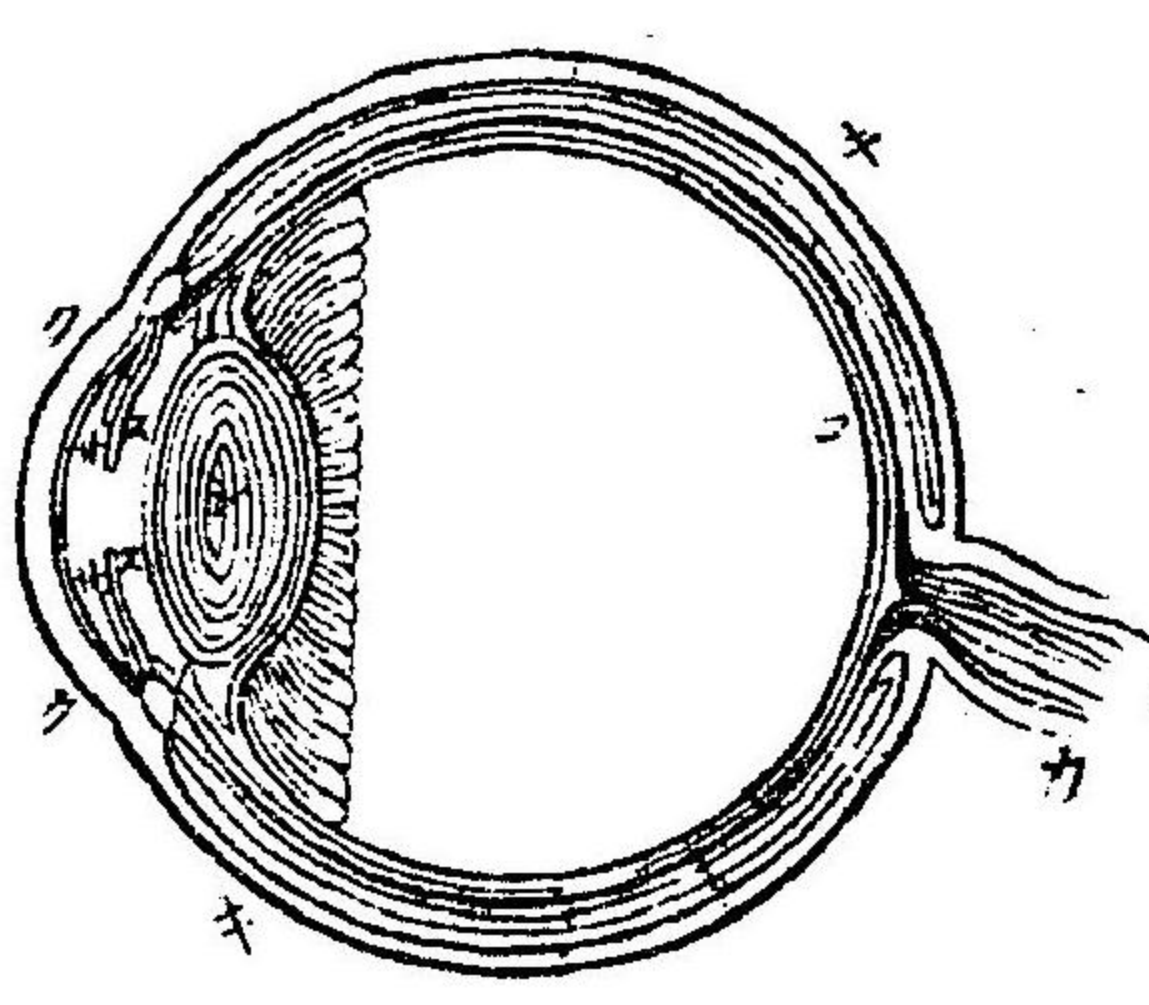
角膜ト云フ小圓錐ハ各々黒膜ヲ以
 テ之ヲ纏ヒ斜メニ來ル所ノ線ヲ吸
 収セシム其錐軸ノ向亦各々異ナル
 故其軸ニ並ビ來ル所ノ光線ノミヲ
 透シテ神經ニ達シ斜メニ來ル線ハ
 皆其周リ黒膜ノ遮ル所トナルナリ

例ヘハ「ス」ヨリ發スル所ノ光線ハ「三」ノ圓錐ニ入テ
 其下ノ神經ニ達シ「ケ」ノ神經ニ至ル「能」ハサルカ

如シ此ノ如クシテ每圓錐其相對スル所ノ點ノ光
 線ノミヲ透シ遂ニ網膜上ニ物体肖像ヲ生スルナ
 リ但シ其視極ハ最外ノ圓錐軸ノ「タチ」ツテノ角ニ
 由テ異ナリ又其上ヲ覆フ所ノ角膜ハ其面納子狀
 ヲナスナリ蠅蜂等ニテハ容易ク之ヲ見ルヲ得ヘ
 シ一眼中圓錐ノ數ハ一萬二千ヨリ二萬ニ至ルア
 ルナリ又「レンス」ノ眼ハ多ク等級高キ動物ノ具ヘ
 テ物像ヲ生スル所ニシテ人目ノ如キ是レナリ但
 シ無血虫ノ中ニモ亦此眼ヲ具フルモノアリ其形
 ヲ成スハ第二圖ノ如シ乃最外ノ膜「キキ」ヲ硬膜ト

生理學 二編卷十二 一頁

第二圖



云フ其質不透明ニシテ甚タ堅ク其用ハ内部ヲ護
 ルモノナリ但シ前面「クク」ハ透明ニシテ且ツ大ニ
 他ノ所ヨリ凸起ス之ヲ角膜ト
 云フ硬膜ノ次ニ又一膜アリ黒
 衣膜ト云フ乃血絡相交リテ結
 ヒ成ルナリ其質極メテ薄ク其
 色微紅ト雖モ黒油粘着シテ墨
 ノ如ク以テ全ク光線ヲ収聚シテ他方ニ散ルヲ防
 クモノナリ「カ」ハ視神經ノ腦ヨリ分レ來ルモノニ
 シテ其末蔓リテ黒衣膜ノ上ニ布キ「コ」ノ膜ヲナス

生理學 二編卷十二 三 開成學子交

之ヲ網膜ト云フ又眼球中ニ數種ノ透明液アリ乃
 一ハ甚タ稀キ液ニシテ直ニ角膜ノ後〔ササ〕ニアリ
 水様液ト云フ其次ニ兩面凸レンス狀ノモノ〔シ〕ア
 リ此モノ薄キ數層ノ透明体ヨリ成リ其内部ハ稍
 固シト雖モ外層ハ甚タ軟ナリ且ツ其外面ハ平圓
 ニシテ内面ハ稍凸圓ヲナス其後ニ明ニ澄メル所
 ノ膠狀粘液アリ玻璃様液ト云フ又角膜トレンス
 ノ間ニ一ノ膜〔ス〕アリ光彩ト云フ茶褐色ナルア
 リ青色ナルアリ每人同シカラス其正中ニ圓孔ア
 リ瞳孔ト云フ乃光線ノ透リ入ル所ナリ但シ光ノ

強弱ニ從テ光彩膜或ハ能ク伸ビ或ハ能ク縮ム例
 ハハ日及ヒ烈火ヲ見レハ瞳孔急ニ收縮シテ之ヲ
 避ケ暗黒ノ室ニ入レハ瞳孔自ラ伸ビ開キテ光ヲ
 取ル故ニ瞳孔ノ大小ハ常ニ定マルコトアルナシ
 以上ノ諸透明体ニテ最モ大切ナルハレンスニシ
 テ其光線ヲ屈折スルノ力モ亦他部ヨリ強シ今第
 三圖ノ如ク物体〔カ〕ヲ眼ノ前ニ適宜ノ距リニ置クト
 スレハ其各點ヨリ發スル所ノ光線瞳孔ヨリ入り
 レンズ及ヒ他ノ液ヲ透テ屈折シ遂ニ網膜ニ至テ
 各其一致ノ點ニ集マルナリ然レモ眼中レンズノ

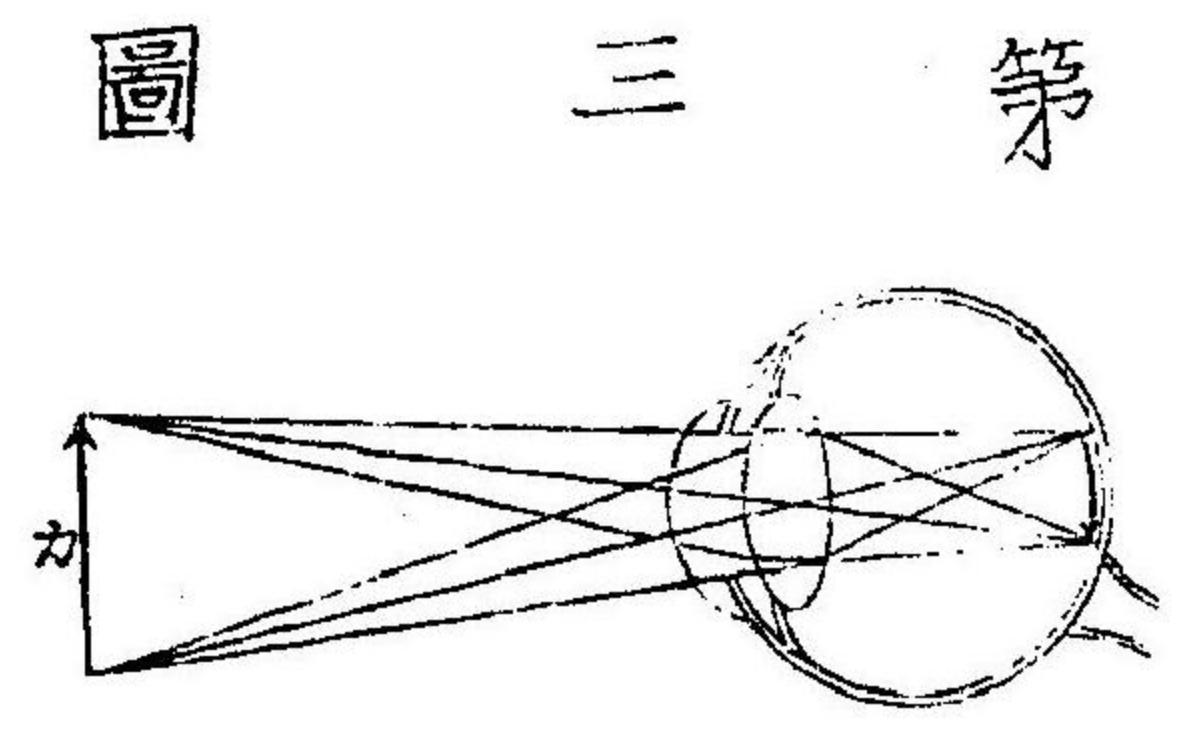
作用決シニ通常ノレンズト異ナルニトナキカ故ニ物体ノ下部ヨリ發スル光線ハ網膜ノ上部ニ至

リ其上部ヨリ出ル線ハ網膜ノ下部ニ至テ相聚マリ其像ノ位置倒シマナル

ハキノ理ナリ其實ニ然ルヲ證セント欲セハ牛眼等ヲ取り其底部ヲ剖キ入

其後ニ在テ前ヨリ來ル所ノ物影其網膜上ニ映スルヲ視テ知ルヘシ又凡ソ

レンズノ燒點距離ハ物ノ遠近ニ由テ異ナリ故ニ明カニ物体ノ形ヲ見ルハ宜シク唯其一定ノ距離



ニアルヘキカ如シ然レ其物体ヲ距ルコト二十

ニセンチメートルヨリ二十七センチメートル以外ナ

レハ人皆能ク之ヲ視ルヲ得ル是レ目ハ自ラ能ク

物ノ遠近ニ由テ燒點ノ距離ヲ易ユルノ方アルニ

由ルナリ之ヲ證スルハ亦極メテ易シ乃玻板ニ一

ノ黒點ヲ施シ二十七センチメートル以外ニ置キ之

ヲ透シテ遠キ物ヲ視ルニ若シ黒點明ラカニ見ユ

レハ遠物ハ明ラカナラス遠物明ラカナレハ黒點

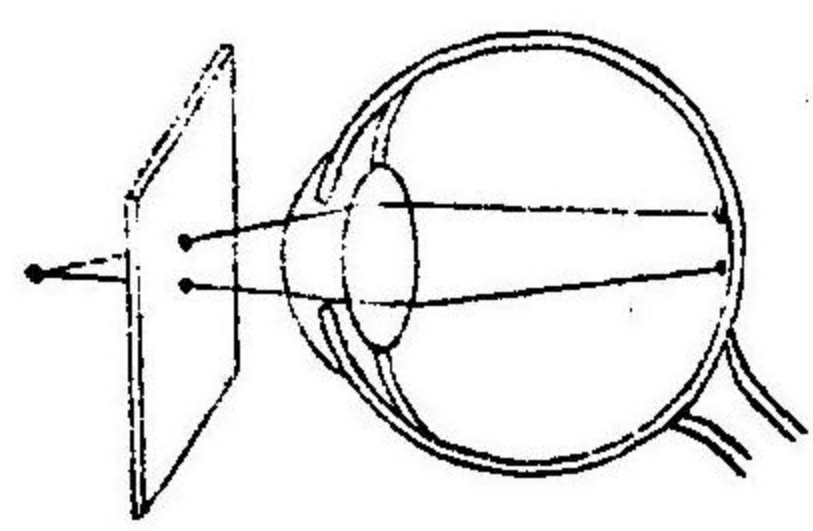
亦見ヘス決シテ兩ツナカラ同時ニ明ラカニ視ル

ヲ能ハサルナリ蓋シ此ノ如ク物体距離ノ遠近ニ

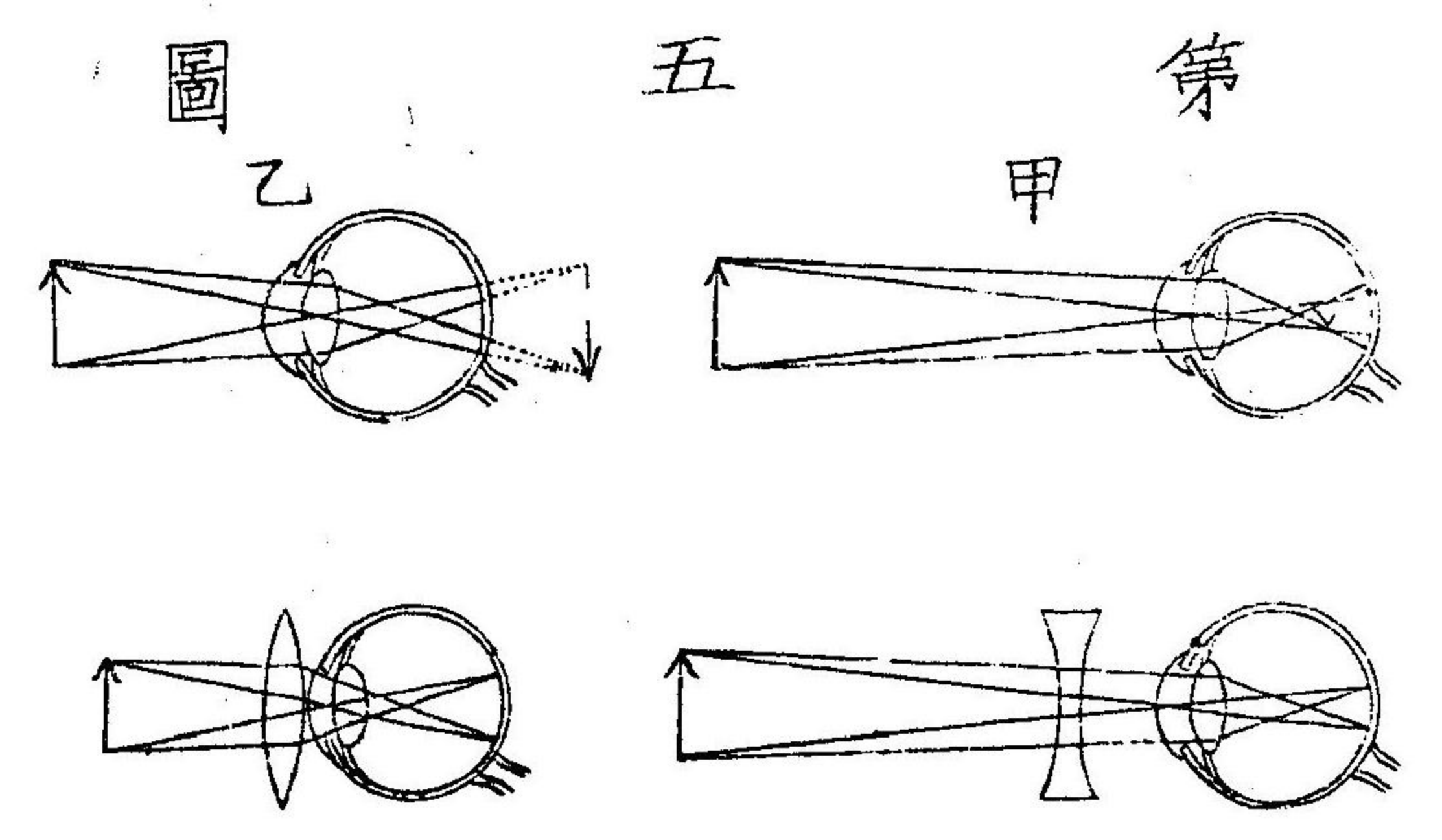
從テ其適當ノ度ヲ異ニスルハ、
 ノ同シカラサルニ由ルナリ乃物体遠ケレハ、
 ス稍内ニ入り其面ヲシテ平ナラシメ物体近ケレ
 ハ、
 折力加ハリ倍スルナリ故ニ光線ハ遠近トナク常
 ニ網膜上ニ聚マルヲ得ル但シ物ヲ見ルニハ其適
 當ノ力自ラ一定ノ限アリ若シ此限ヲ越ヘテ近ケ
 レハ其形却テ明ラカナルヲ得サルナリ此限ヲ稱
 ヘテ明ラカニ視ル距離リト云フ蓋シ每人少差ア
 リト雖凡通常ハ大抵二十二センチメートルヨリ二

十七センチメートルノ間ニアリ是レ物体此距離ヨ
 リ近ケレハ其各點ヨリ發スル所ノ光線網膜上一
 致ノ點ニ聚マルコト能ハサル故其形明ラカナラ

第四圖



サルナリ之ヲ證スルニハ針ニテ紙ニ
 ニツノ孔ヲ穿テ其距離ハ瞳孔ノ直徑
 ヨリ小ナラシメ別ニ細キ針ノ如キモ
 ノヲ取り此限ヨリ内ニ置キ一目ヲ塞
 キ他ノ一目ニテ其孔ヨリ之ヲ望メハ恰モ二針ノ
 如ク見ユルナリ是レ針ヨリ發スル所ノ光線二孔
 ヨリ入り一点ニ相聚マルコトヲ得スシテ網膜上



ノ二点ニ來ル故ナリ乃第四圖ノ如シ若シ物ヲ此限リヨリ近ツケサレハ明カニ見ル能ハサルヲ近視眼ト云ヒ之ニ反スレヲ遠視眼ト云フ皆目力ト距リト適當ノ度ヲ得サルニ起ルナリ乃第五圖甲ノ如ク近視眼ハ乙ノ屈折力強キニ過クルモノニシテ若シ物体通常ノ距リニアレハ其燒點ハ網膜ノ前

ニアルナリ故ニ之ヲ補フハ凹ノレンズヲ用ヒテ屈折力ヲ弱クスルニ在リ遠視眼ハ之ニ反シテ凹ノ屈折力足ラサルニ由ルモノニシテ近キ物ヨリ發スル所ノ光線ハ網膜ノ後ニ至テ聚マラントスルコト乙ノ如シ故ニ凸ノレンズヲ以テ之ヲ補フヘシ且ツ近視眼ハ大抵平日ノ習レニ由ルモノニシテ久シク顯微鏡ヲ望ミ或ハ常ニ近クシテ小ナルモノヲ視レハ此患ニ罹ルアリト雖モ遠視ハ多ク年老衰弱ノ致ス所ニ因ルナリ

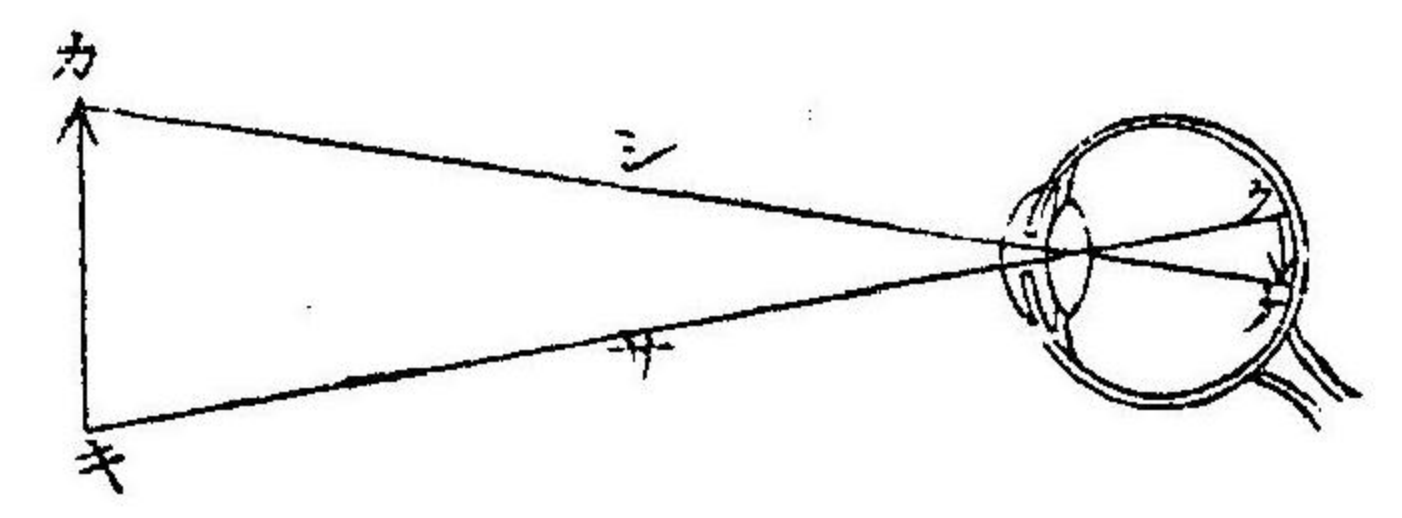
第九十六回

動物眼中ノ「 L 」ニ「 S 」ハ通常ノ「 L 」ニ「 S 」ト同シ作用ヲ
 ナスコト前ニ説ケルカ如シ但シ通常一種ノ透明
 体ニテ作りタル「 L 」ニ「 S 」ハ必ズ物体ノ周リニ虹色
 ヲ現ハスト雖凡人目ハ絶テ此事ナクシテ全ク「 A 」
 クロマチクヲナスニ似タリ既ニ説ケル如ク通常
 「 A 」クロマチク「 L 」ニ「 S 」ハ各其分散力ヲ異ニスル所
 ノ透明体ニテ其形ヲ適宜ノ「 L 」ニ「 S 」ヲ作り相合ス
 ハ之ヲ成スヲ得ルナリ然シ人目中ノ透明体ハ
 「 L 」ニ「 S 」ノミナラス之ヲ概スルモ尚一種ノ異体ア
 リ乃「 L 」ニ「 S 」ノ前ニ水様液アリ後ニ玻璃様液アリ

此諸体皆光線ヲ分散スルノ力各同シカラズ人目
 ノ「 A 」クロマチクナルハ蓋シ此レカ為ナリ然シ或
 ハ人目全ク「 A 」クロマチクニ非ストスル者アリ乃
 物体ヲ視ルキ眼中ノ「 L 」ニ「 S 」ヲシテ其距リニ適當
 セシメサレハ其周圍ニ諸色ヲ見ルアル故ナリ例
 ハハ玻璃板ノ中心ニ黒點ヲ施シ之ヲ或ル距リニ置
 キ其透明ノ部ヲ透シテ遠体ヲ望ミ或ハ厚紙ヲ取
 リ直徑二「 M 」リメトル程ノ一孔ヲ穿テ人目ヨリ二
 三「 M 」センチメートルノ距リニ置キテ遠物ヲ透シ視
 レハ其黒點及ヒ孔ノ周リニ諸色ヲ生スルカ如シ

但シ人々ニテ見ル所同シカラサルナリ○凡ソ人
 外物ヲ視テ其形狀色相ヲ識ルハ物体自ラ光線ヲ
 發シ或ハ他ヨリ來ル所ノ光線ヲ其体面ヨリ反射
 シ眼中ニ入り其肖像ヲ網膜上ニ聚メテ感動ヲ神
 經ニ起スニ由ルナリ然レモ人只外物アルヲ知リ
 却テ眼中其肖像アルヲ覺ヘサルモノハ他ナシ即
 幼キキヨリ自然ニ習慣シ眼中ニ一像ヲ生スレハ
 必ス眼外ニ一物アルコトヲ悟リ遂ニ其神經ニ感
 ズルモノハ網膜上ノ肖像ナルコトヲ覺ヘスシテ
 常ニ全ク之ヲ外物ニ歸スルナリ故ニ目ヲ塞キ指

第六圖

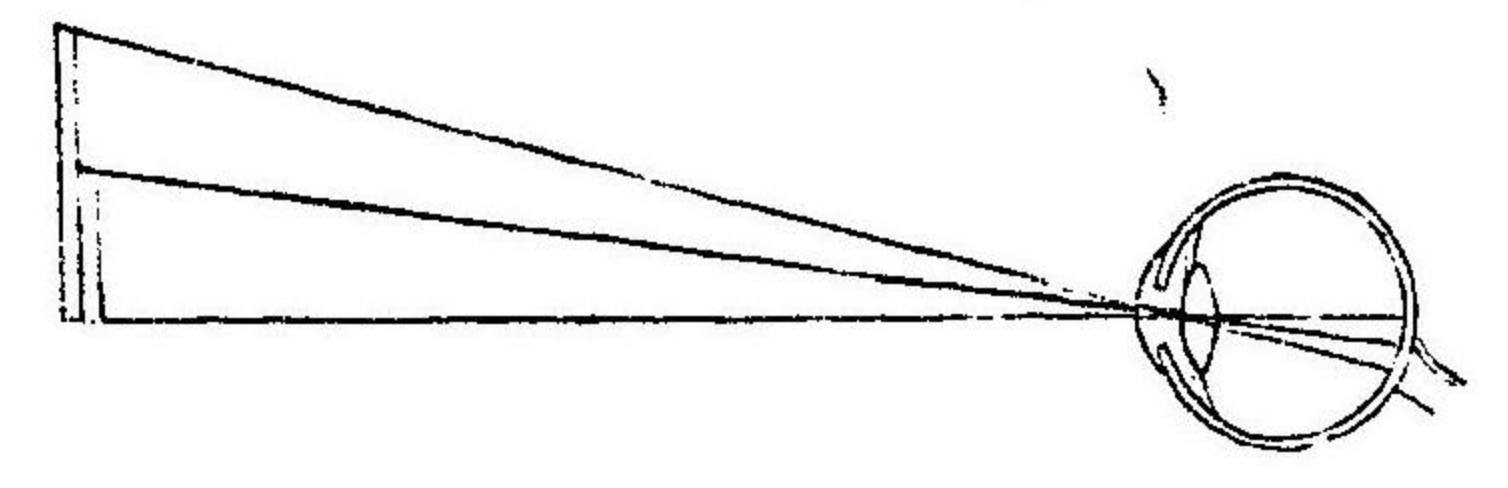


ヲ以テ強ク之ヲ歷シテ網膜ヲ變動スルモ亦外物
 ヲリ光ノ來ルカ如キヲ覺ユルナリ又衆人常ニ物
 体ハ目ニ入ル光線ノ向キニ在リトス
 前説ノ如ク網膜上ニ映スル所ノ諸物
 像ハ其位置皆倒シマナルコト第六圖
 ノ如シト雖モ人皆之ヲ覺ハス却テ其
 正シク立ツヲ視ルノ理ハ臆斷ニテハ
 極メテ會得シ難キカ如シト雖モ是レ
 亦幼キヨリノ習レニテ光線〔サ〕ハ物
 体ノ下端〔キ〕ヨリ發シ〔シ〕ケハ上端〔カ〕ヨリ發スルヲ

知ル故ニ網膜上ニテ倒影ヲナスト否ラサルトニ
關ラス只光線ノ向キニ因テ物体ノ位置ヲ察シ知
ルナリ又人目ハ光線ノ向キノミナラス能ク物ノ
大小遠近ヲ視別ツノ力アリ是レ眼中ノ肖像ハ固
ヨリ一膜上ニ映スルモノニシテ萬物ノ距リ皆均
シク見ユヘキ理ナレハ亦幼キヨリ習慣經驗シテ
其然ラサルヲ知ルナリ乃初メ或ル距リニ在テ數
箇ノ物体ヲ望ミ次ニ進行シテ物ニ近ツケハ必ス
其位置前ニ見ル所ト異ナリ因テ其距離遠近ノ差
ヲ定ムルヲ得ル是レ後ニ全ク慣ル、ニ至レハ一

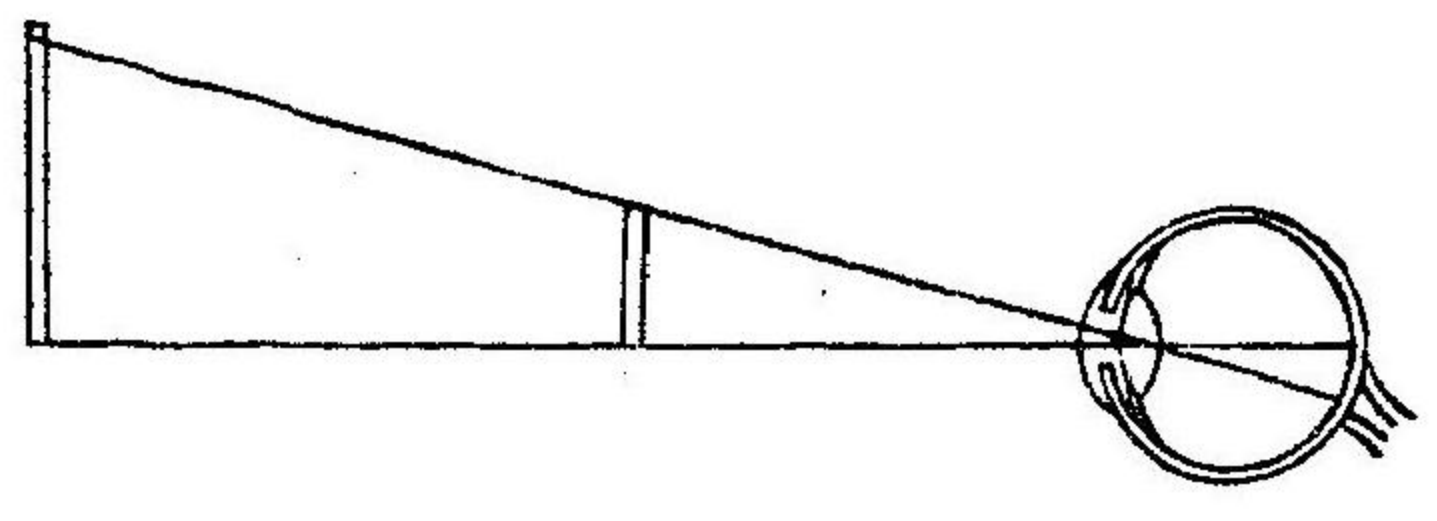
所ニ留リテ能ク之ヲ知ルヘシト雖_ニ初メハ必ス
自ラ運動シテ試ムルニ非レハ決シテ知ル能ハサ
ルナリ乃嬰兒或ハ月ヲ握ラント欲スルハ此慣レ
無ケレハナリ凡ソ網膜上ニ墜ル所ノ肖像ノ上下
二點ヨリ各線ヲ引キ物体中一致ノ二點ニ至レハ
其線必ス眼中ニ於テ相交リ一定ノ角ヲ生ス之ヲ
視角ト云フ乃總テ物体ノ視大_ニ網膜上ノ肖像ノ
大小ニ係ハリ其肖像ノ大小ハ此視角ノ廣狹ニ比
ハ其廣狹ハ物ノ遠近ニ由テ異ナルナリ故ニ距リ
同シテレハ視角ハ物ノ大小ニ正比例ニシテ物体

愈大ナレハ視角モ亦愈大ヲナスコト第七圖ノ如シ然レモ若シ其距リ同シカラサレハ亦然ラサルナリ乃初メ或ル大サノ体ヲ一ノ距リニ置キ次ニ之ヲ其半ノ距リニ置ケハ其視角ハ倍大トナル故ニ一尺ノ物ヲ一ノ距リニ置キ五寸ノ物ヲ其半ノ距リニ置ケハ兩ツナカラ同大ノ如ク見ユルコト第八圖ノ如シ若シ角度極メテ大ナレハ亦差ヲ生スト雖モ通常視角ハ甚タ小ナル故ニ距リト角度ト正比例ヲナス



第七圖

テ可ナリ是ニ由テ視大ト實大トハ必スシモ同シカラサルヲ知ルヘシ其實大ヲ知ルニ種々ノ方アリト雖モ先ツ其距リヲ知ルニ在リ是レ亦習慣ニ非サレハ能ハス之ヲナスニ數方アリ例ハ遠方ニ在テ原野ノ一家ヲ望ミ其高サヲ知ラント欲スルモ他物ノ比フヘキモノナケレハ之ヲ定ムルコト難シト雖モ若シ人物等ニテモ平生其大サヲ知ルモノ其家ノ側ニ在レハ相比ヘテ家ノ大サヲ知リ已ニ其大



第八圖

物理學 卷之二 終 十一

サヲ知レハ其視角ヲ推シ其距リヲ知ルナリ是レ
衆人毎日為ス所ト雖凡平生習慣シテ其然ルヲ知
ラサルナリ術上ニ遠距離ヲ測ルモ亦此理ニ原ツ
クナリ乃望遠鏡中ニ縱横ノ細線數條ヲ設ケ遠地
ノ人物等其幾線ノ間ニ入ルヲ見テ因テ表ヲ吟味
シテ其距リヲ知ルナリ又物体ノ諸部明カナルト
否トニ由リ其距リヲ知ルヘシ例ハ庭前ノ樹木
ハ枝葉共ニ其形狀ヲ見ルヲ得ルト雖凡稍遠ケレ
ハ葉色ト樹幹ヲ見ル更ニ遠ケレハ唯一綠物ヲ見
ルノミ故ニ大抵其明朦ノ度ヲ見テ其遠近ヲ察知

スヘシ若シ其距リ極メテ遠ケレハ物色ノ變化ニ
由テ其距リヲ知ルヲ得ヘシ是レ大氣ハ近ケレハ
清ク透明ナルカ如シト雖凡愈遠ケレハ然ラサル
ニ由ルナリ例ハ距リ遠ケレハ物体ノ諸色大抵
消ヘテ周圍分界明カナラス甚タシク遠キハ唯
一蒼色物ヲ見ルカ如シ然シ此方ハ視差ヲ生シ易
シ何ナレハ陰晴ノ變ニ由リ大氣ノ明朦其度ヲ異
ニスレハナリ乃物ノ視角ハ常ニ同シト雖凡曇天
ニハ其分界明カナラサルヲ以テ遠ク見ハ晴天ニ
ハ之ニ反シテ近ク見ユ是レ平日常住ノ地ハ常ニ

里七ヨ巳 二編卷十二 十二 月成學交

理竹 日 詰 二 終 卷 十二 開 成 學 林

習慣シテ差ヲ生セスト雖凡他所ニ往ケハ屢此誤
リヲ生スルヲアリ又平日習慣スル所ト雖凡視差
ヲ正ス能ハサルモノハ日月ニシテ時アリテ或ハ
大或ハ小ヲナスカ如キヲ覺ユルナリ此二体ハ其
遠近素ヨリ常ニ同フシテ其大小モ亦變化アルノ
理ナシト雖凡人其水平ニ在ルヲ見レハ大ニシテ
天頂ニ至レハ小ヲナスカ如シ是レ蓋シ水平ニ在
レハ多クノ大氣ヲ隔テ之ヲ見ル故其分界明カ
ナラスシテ遠シト思ヒ因テ其大ナルヲ覺ユルナ
リ且ツ衆人物体ノ距リヲ測ルニ平生水平ノ向キ

ニ在ルモノハ自ラ習熟スル所アリト雖凡遙カニ
高キヲ測ルハ固ヨリ習熟スル所無シ故ニ月ノ如
キモ初メ上ルキハ眼前ノ山ノ如キモノト比ハテ
其遠キヲ悟リ中天ニ至テハ四方ニ比フルモノナ
キヲ以テ甚々遠カラスト思フナリ但シ其視角ハ
常ニ異ナルコトナシ又同シ理ニ因リテ衆人天ヲ
以テ圓球狀トセス天頂ハ平ニシテ低ク周圍ハ圓
ニシテ遠ク洽カモ楕圓形ヲナストスルナリ且ツ
衆人日月ノ大サヲ測ルニ唯幾尺幾寸ト云フハ殊
ニ謂ハレナキノ甚シキナリ是レ實ハ幾尺ノ物ヲ

理七 日 巳 二 編 卷 十二 十三 開 成 學 林

幾何ノ距リニ置クニ同シト云フヘキナリ若シ其
距リヲ云ハサレハ針頭モ尚月ト同シ大サト云フ
ヲ得ヘシ故ニ此ノ如キ遠距ニ在ル物ハ只其角度
ニ就テ其大小ヲ言フヘシ例ヘ八月ハ半度ナリト
云フカ如シ又物体ノ視角甚々小ナレハ人之ヲ見
ル能ハス其限ハ大抵半分乃三十秒ナリト雖在每
人同シカラヌ且ツ其物ノ色及相對スル所ノ面ノ
色ニ因リ亦異ナルナリ例ヘハ其面ト体ト同シ色
ナレハ視角大ナルヲ要スト雖在其明暗ノ度甚々
異ナレハ視角二秒以下ニテモ尚能ク之ヲ見ルハ

シ乃モヲ以テ晴天ニ對シ見ルカ如シ又物ノ形ニ
由テ異ナルヲアリ乃長ハ圓ヨリ見ヘ易キカ如シ

第九十七回

眼前ニ二物ヲ置キ一ハ遠ク一ハ近クシ兩眼ヲ以
テ其近キヲ視詰レハ遠キモノハ二影ヲ見ル又遠
キヲ視詰レハ近キモノ亦然リ其理知リ易シ乃第
九圖ノ〔カ〕ヲ視レハ兩眼ノ視軸乃角膜ニ網膜中心
ヲ繫ク所ノ線〔ク〕〔サ〕皆其點ノ方ニ向キ〔カ〕ノ肖
像左右トモ網膜ノ正中ニ在ルカ故ニ唯一影ヲ見
ルト雖在〔キ〕ノ肖像ノ位置ハ左右皆異ニシテ一ハ

五ノ下言ニ点一ニ

網膜中心ノ右ニ在リ一ハ其左ニ在リ故ニ其二影

ヲ見ルナリ然レモ每物一影ヲ見ルハ強テ其視

軸ノ向キニ在ルヲ要セ

ス唯其肖像兩眼網膜同

致ノ部ニ生スレハ可ナ

リ乃第十圖ノ如クカ体

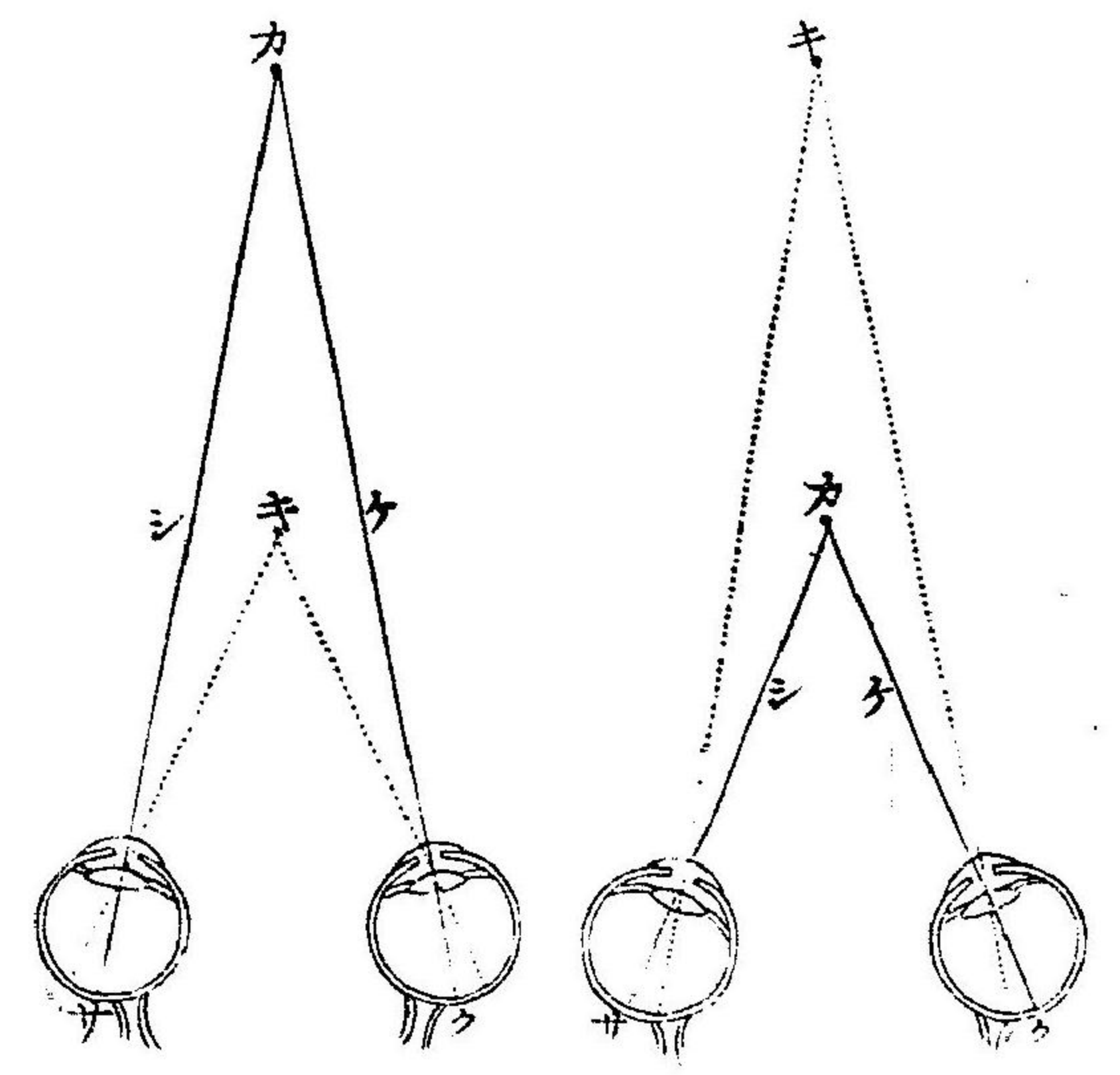
ノ光線ハ視軸ニ並ト來

テ其肖像網膜ノ中心ニ

ガニ生シキノ肖像ハ網膜中心ノ右ニ生シク

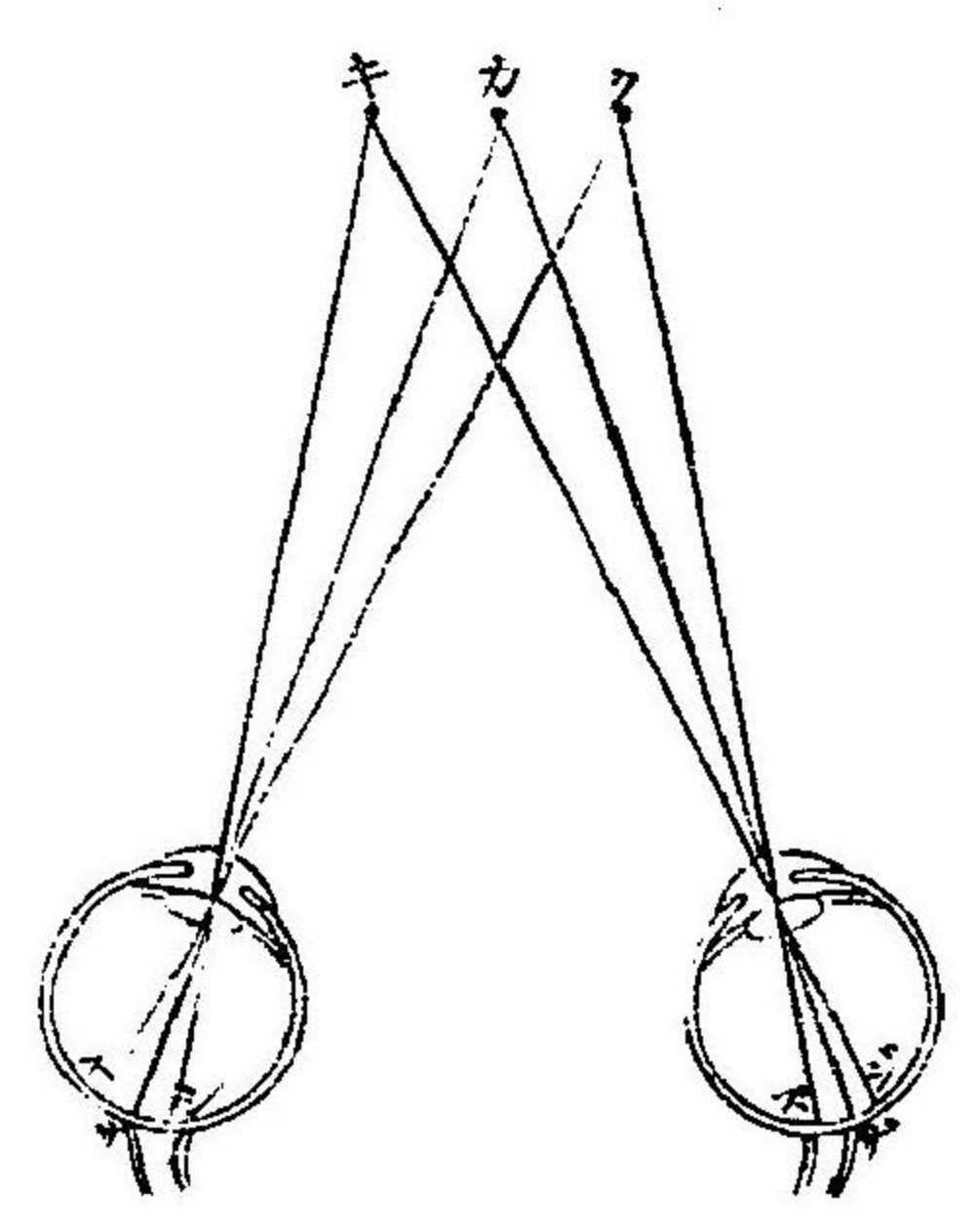
第九

圖



第十

圖



ハ其左スズニ生シ左右トモ精密ニ同部ニ在ルナリ故ニカキクノ三体皆各一影ヲ見ル又兩眼ニテ

物ヲ見ルハ只一眼ヲ用ユル

ニ比フレハ其影明ナリ得

ルナリ例ハ白紙ヲ眼前ニ

置キ一眼ハ其全紙ヲ視一眼

ハ只其半ヲ視ルトキハ兩眼

ノ視ル所ハ明ニシテ一眼ノミニテ視ル所ハ稍暗

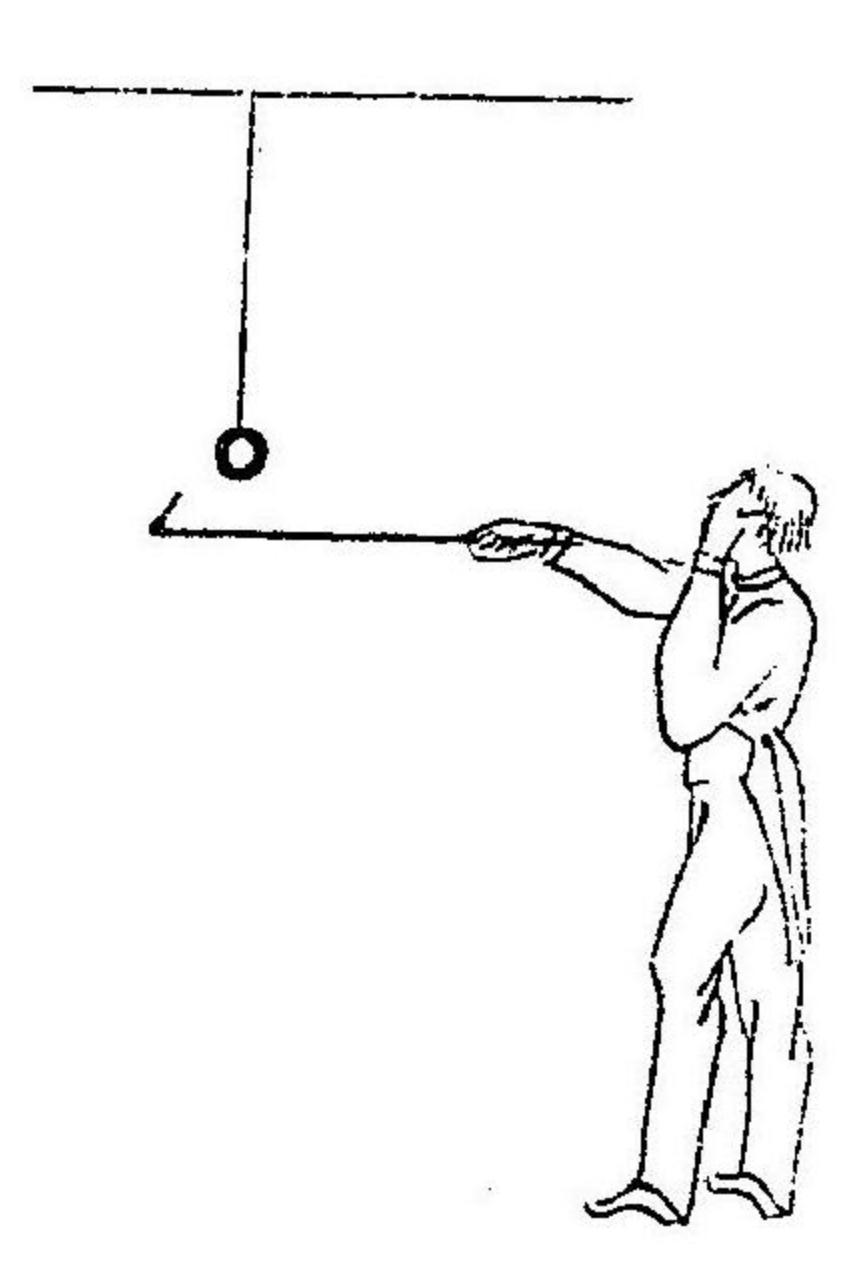
キヲナスカ如シ又兩眼各一像ヲ生シ却テ一影ヲ

見ルハ蓋シ神經自然ノ機ニ由リ兩眼網膜一致ノ

理此相記 二編卷廿二 五 開成 齋

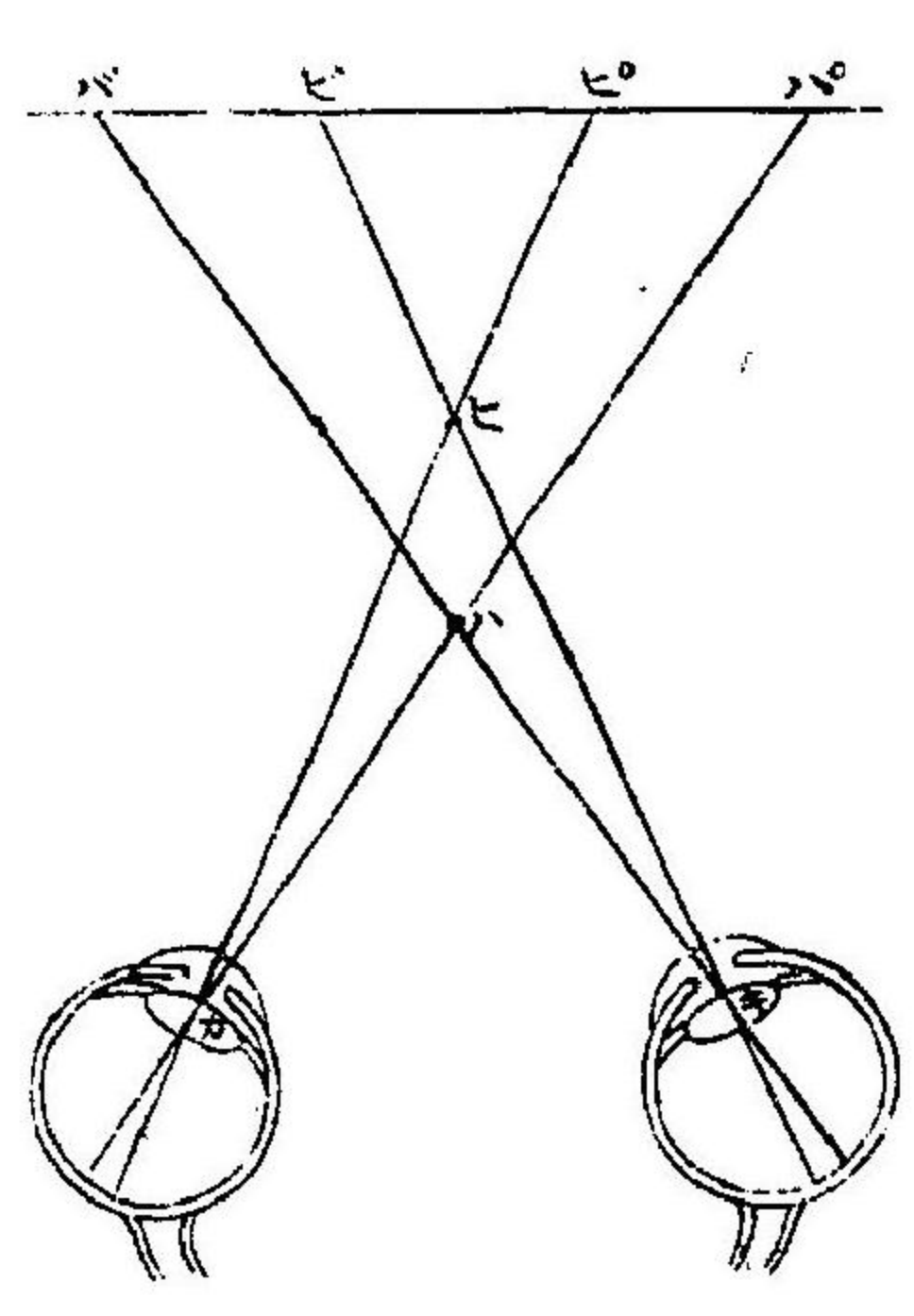
部ハ皆同根ヨリ出ルニ由ルナリ又兩眼ヲ以テ物
 ヲ視レハ近キ距リヲ測ルニ便ナリ例ヘハ一指ノ
 眼前ニ立テ遠キ物ニ對シ視ルニ唯右眼ヲ以テス
 ルト又左眼ヲ以テスルト其
 位置各異ナルヲ見ル指益近
 ケレハ其左右ニ差フ亦益
 大ナリ故ニ其差ノ大小ニ因
 テ物ノ遠近ヲ知ルヘシ平日絲ヲ縫針ニ貫クニ兩
 眼ヲ用ユルヲ便トスルモ此理ニ由ルナリ又第十
 一圖ノ如ク糸ニテ環ヲ懸ケ曲レル棒ヲ取リテ之

第十圖



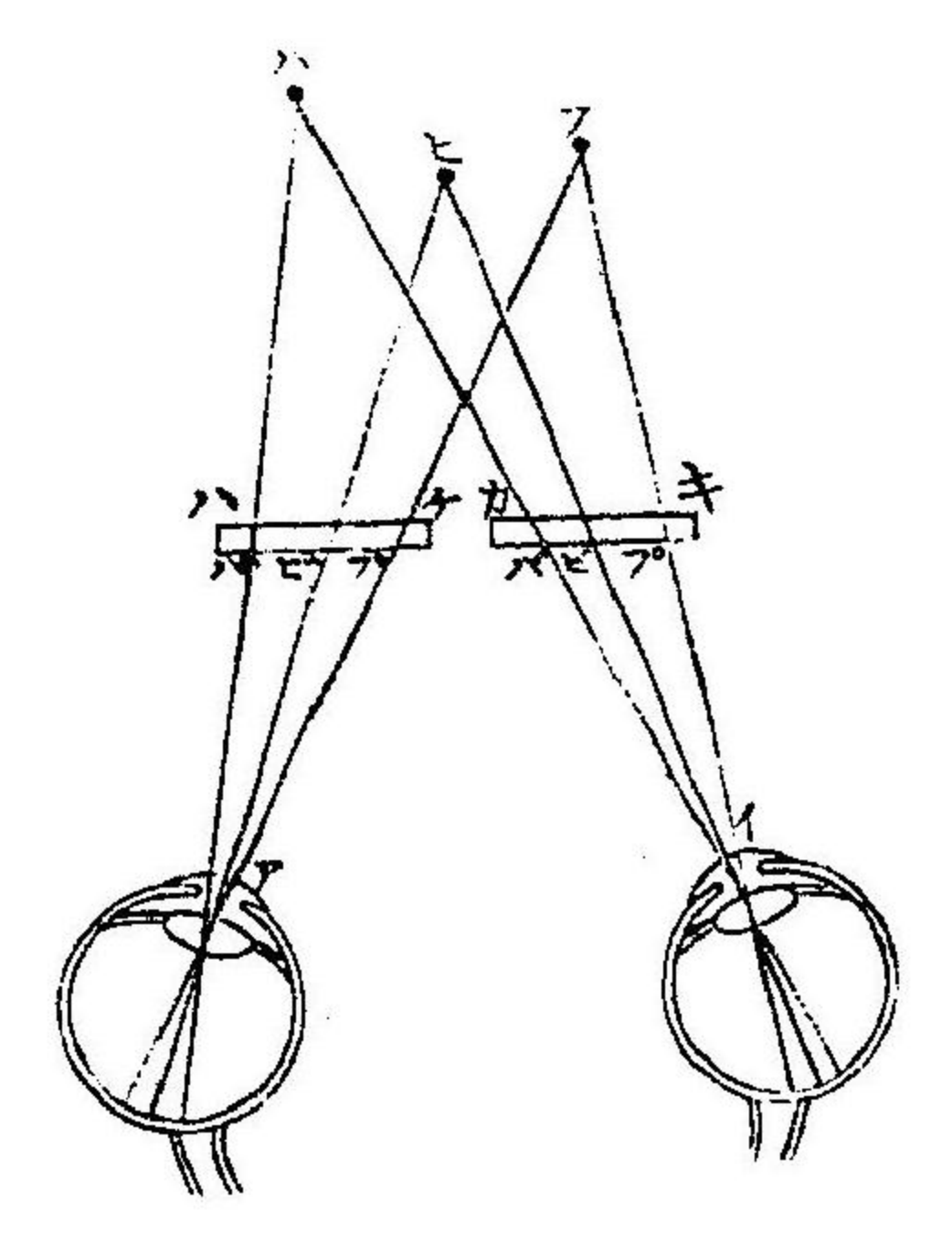
ヲ貫クニ兩眼ナレハ之ヲ為スコト至テ易シト雖
 片一眼ヲ塞ケハ之ヲ為スコト甚々難シ是レ一眼
 ヲ以テスレハ其環ノ遠近ヲ辨シ難シト雖片兩眼
 ヲ以テスレハ直ニ之ヲ知
 レハナリ乃第十圖ノ如
 ク右ノ眼ヲ以テハビノ二
 体ヲ視レハバビノ向キニ
 在ルカ如ク又左ノ眼ヲ以
 テスレハバビノ向キニ在
 ルカ如キヲ見ルナリ因
 テバビノ距リハバビヨリ大ナル故カハキノ角度

第二十圖



カヒキヨリ大ナルヲ察シテハノヒヨリ近キヲ悟ルナリ凡ソ厚薄ヲ具フル所ノ實體ヲ視ルト其形状ヲ一平面ニ画キタルヲ視ルト互ニ異ナルハ亦

第三十圖



是レカ為メナリ例ヘハ第十三圖ノ如クハヒフノ三點ヲ右ノ眼ニテ視レハカキノ平面上ハビブニ在ルカ如ク又左ノ眼ヲ以テスレハクケノ平面上ハバビブニ在ルカ如クシテ共ニ其遠近ヲ辨スル能ハスト雖モ今同時ニ兩眼ニテ

視レハハバアバイノ二線バアビイノ二線及ヒバア

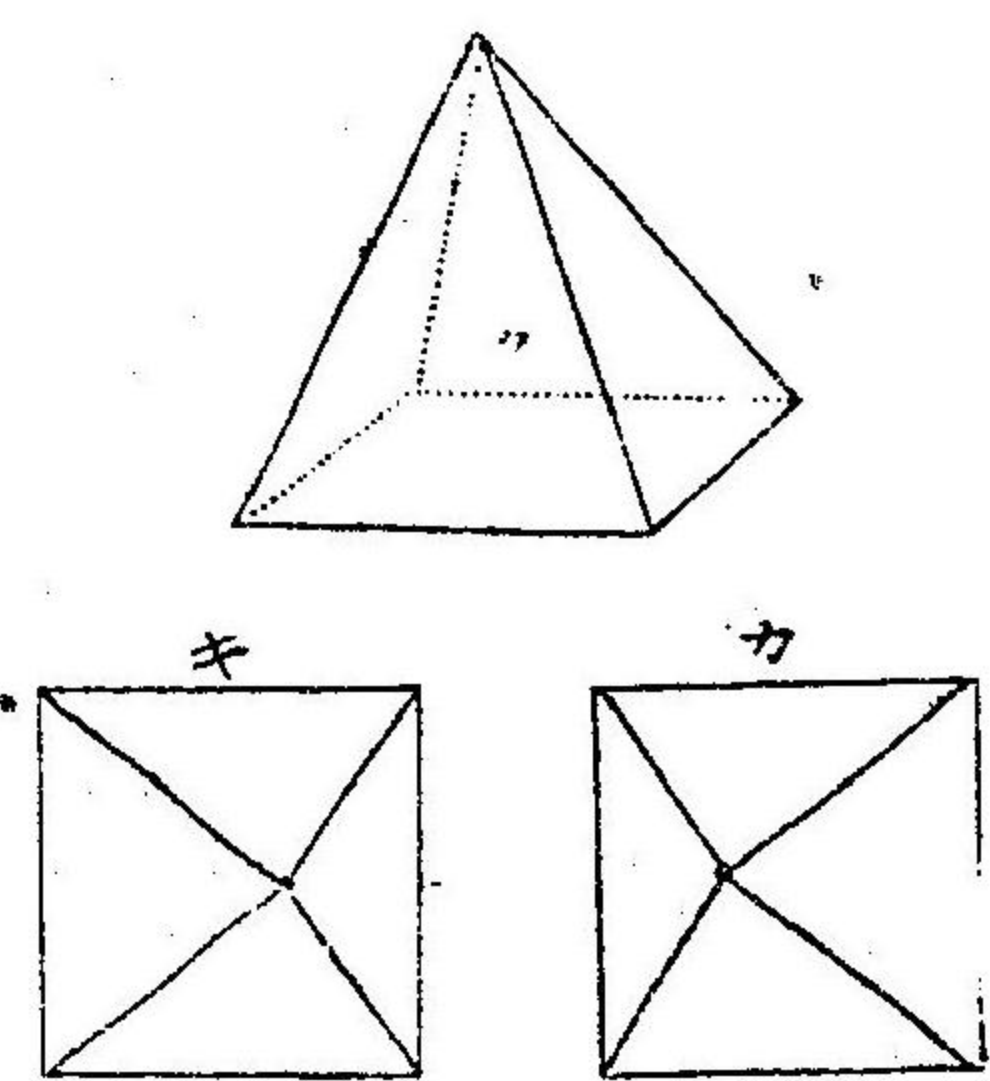
アイノ二線皆兩眼網膜上一致ノ所ニ來ルカ故ニ各其同點ヨリ發スルヲ察シ其距リハ毎二線ヲ出逢フ所ノ點ハヒフナルヲ知ルナリ是ニ由テ觀

レハ兩眼網膜上ニ映スル所ノ物体肖像各異ニシテ此二像相合シ其体ノ厚薄ノ感シヲ生スルナリ故ニ一平面ニ物体ノ形ヲ画ケルノミニテハ決シ

テ其諸部遠近アルヲ覺ヘスト雖モ若シ二画ヲ作リ一ハ唯右ノ眼ヲ以テ視ルキノ如クシ一ハ左ノ眼ヲ以テ視ルキノ如クシテ各同時ニ此二画ヲ望

ミ其肖像ヲシテ兩眼網膜同致ノ部ニ映セシムルハ
 如クスレハ二像忽チ相合シテ一トナリ其諸點ノ
 遠近異ナルヲ恰モ實體ヲ視ルカ如キヲ覺ユルナ
 リ謂ハユル枕眼鏡ハ此理ニ

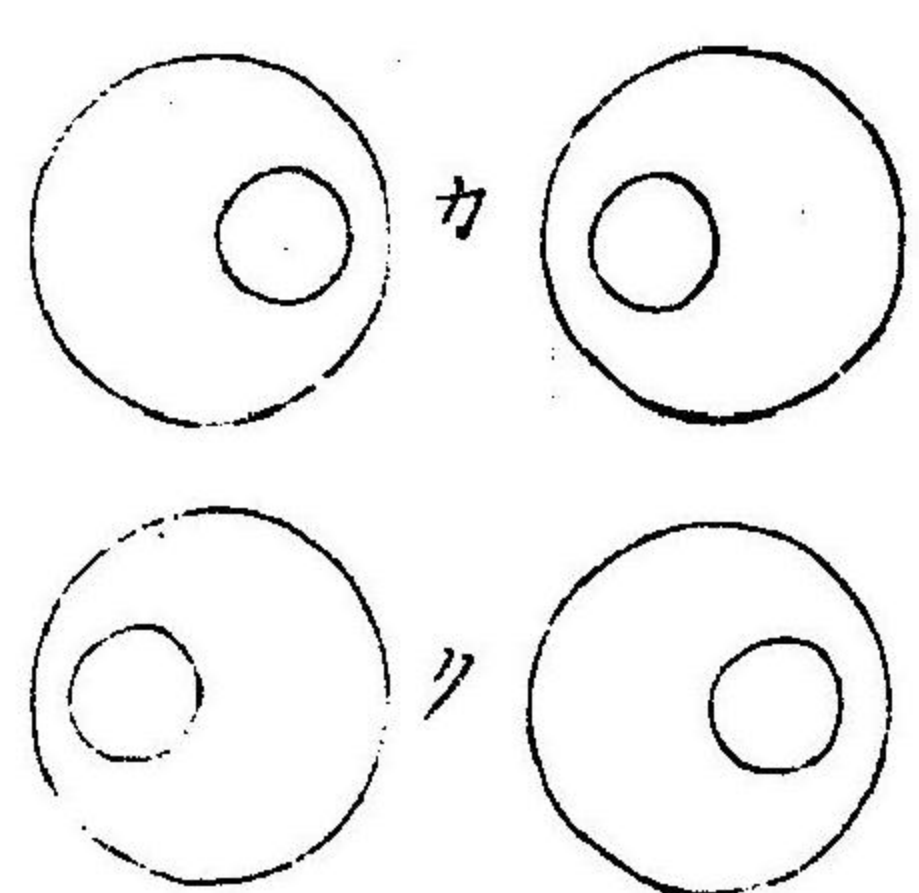
圖四十第



ハ[キ]ノ如シ因テ其間ニ板ヲ隔テ左右ノ眼ヲ以テ
 同時ニ其一致ノ画ヲ望メハ二画相合シテ一影ヲ

基ツクモノナリ乃第十四圖
 [カ]ノ如キ訪雖ヲ上ヨリ望
 メハ右ノ眼ヲ以テスルキハ
 [カ]ノ如ク左ノ眼ヲ以テス

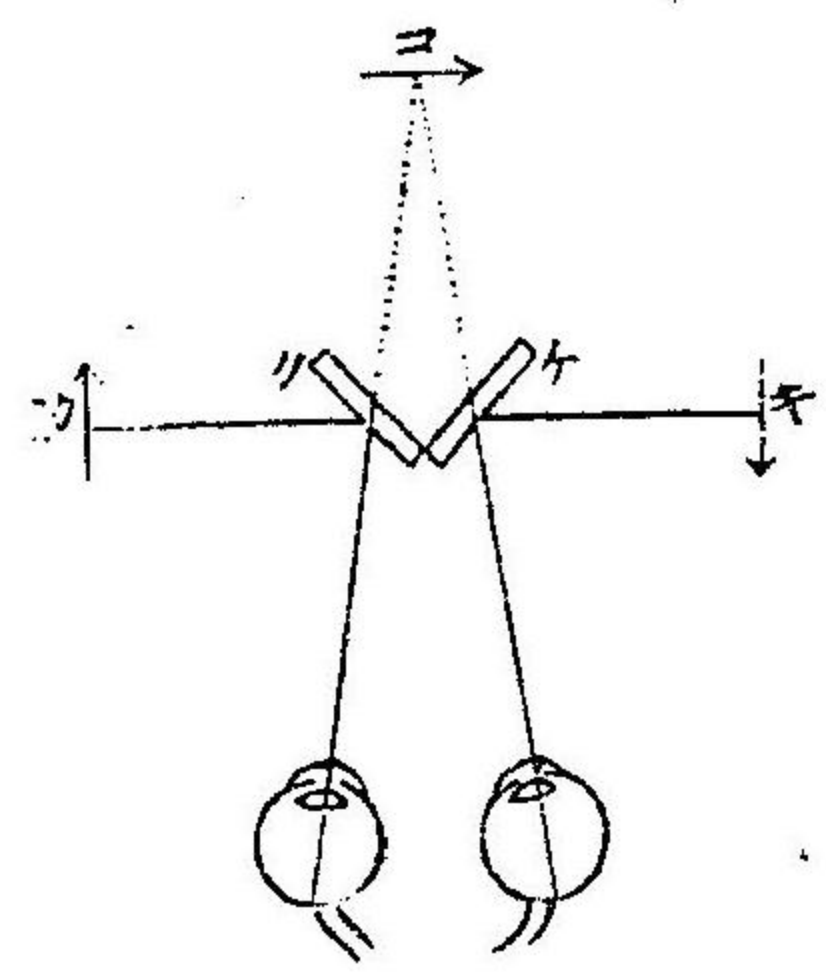
圖五十第



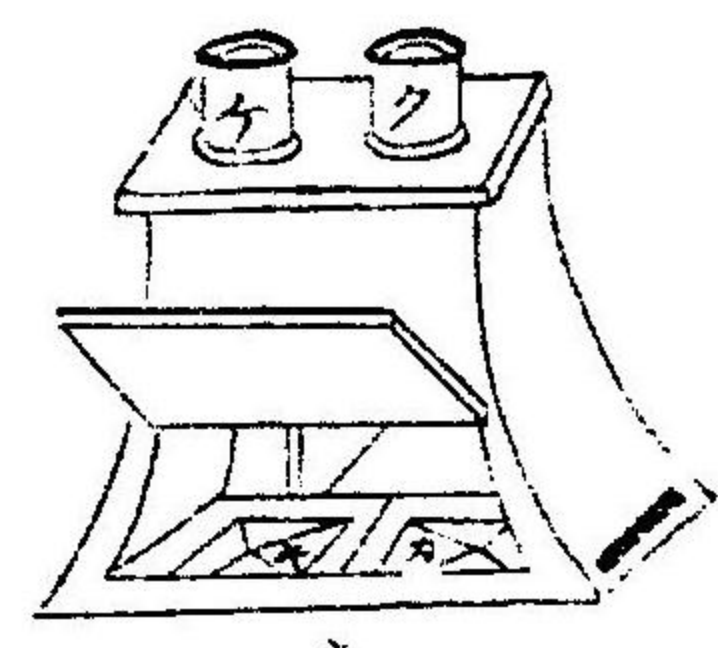
ナスノミナラズ兼テ其中心浮キ上リ真ノ方錐形
 ヲナスナリ又第十五圖ニ示ス所ノ[カ]ノ如キ重圈
 ヲ視ルニ前方ヲ以テスレハ其
 中ノ小圈高ク浮キ上リ又左右
 相反シテ[ク]ノ如クスレハ小圈
 却テ深ク沈ミ下ルヲ見ルハ
 是レ圈ノ中心相離ルレハ其視
 軸ノ角度小ニシテ眼ヨリ遠キヲ覺ハ相近ヨレハ
 視軸ノ角度大ニシテ其近キヲ覺ユルナリ但シ前
 方ハ近視眼ノ人ナレハナシ易シト雖モ若シ然ラ

サルモ、ハ枕眼鏡ヲ用ヒサレハ二画ノ合一スル
ヲ視ル能ハス此枕眼鏡ハホ井トストウシ氏ノ
始メテ發明スル所ナリ然レモ其製作ハ方今用ユ

第六十圖



ル所、モノト異
ナリ乃第十六圖
ノ如ク「カキ」ニ二
画ヲ置ケハ「カケ」

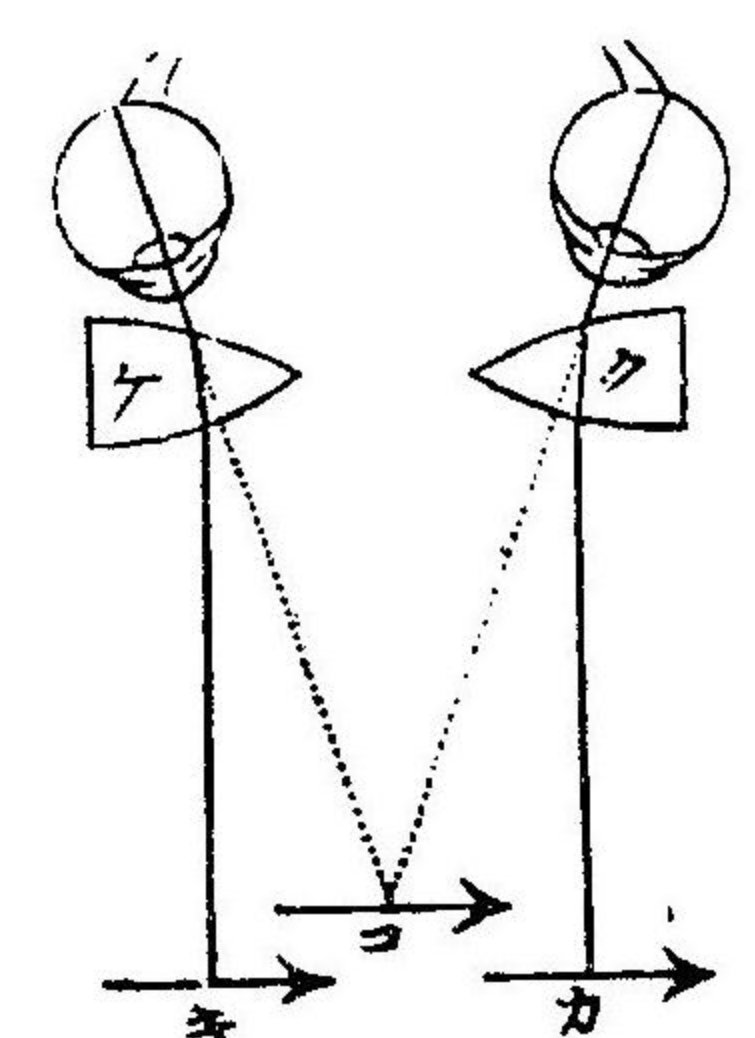


第七十圖

ノ二鏡其画像ヲ反射シテ「コ」ニ在ルカ如キヲ見ル
ナリ方今用ユル所ノ枕眼鏡ハ「カ」リウストン氏ノ
發明スル所ニシテ其形第十七圖ノ如シ乃「カキ」ニ

二画ヲ置キ「カケ」ノ「コ」リズムヲ透シテ之ヲ望メハ

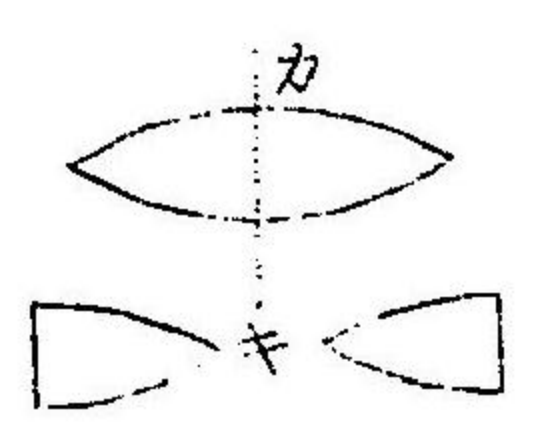
第八十圖



光線屈折シテ「コ」ニ其一影ア
ルヲ見ル「カ」第十八圖ノ如キ
ナリ「コ」リズムハ二角同大ヲ
要スト雖モ之ヲ製スル「カ」易

シ乃第十九圖ノ如ク凸レンズ「カ」ヲ中斷シ之ヲ「キ」

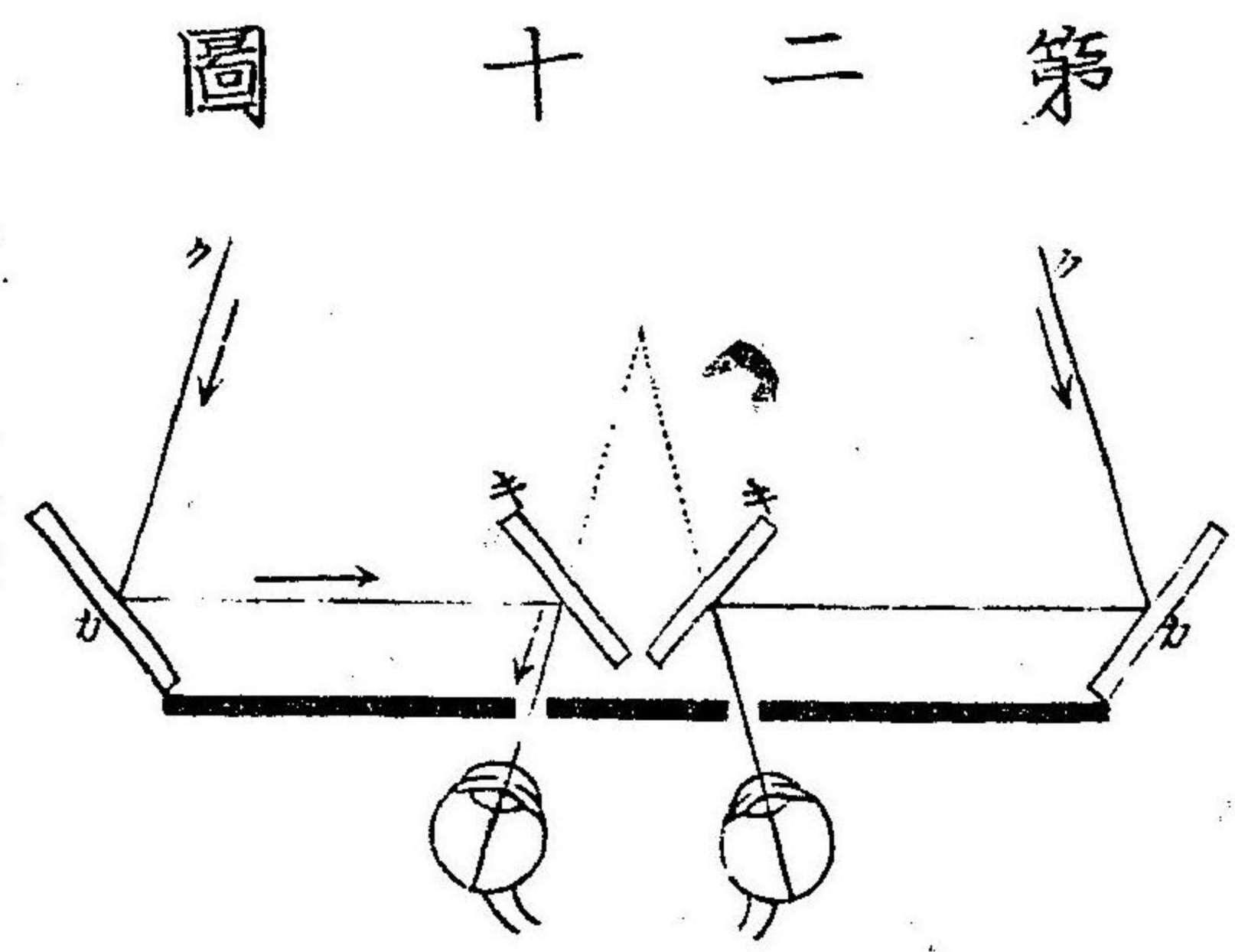
第九十圖



ノ如ク反用スルナリ但シ前ノ方錐及
ヒ重圈ノ如キハ左右ノ眼ニテ別々ニ
視ル所ヲ画ク「カ」甚々易シト雖モ他、

細密ノ画ニ至テハ之ヲナス「カ」極メテ難ク古人深

ク之ヲ患ヘトセリ然ニ近來ハ寫真術ヲ以テ容易ク其画ヲ作ルコトヲ得ル因テ枕眼鏡大ニ世ニ行ハルニ至レリ是レニツノ寫真鏡ヲ物体ニ對シ置キ二鏡ヲシテ稍相偏ラシメ同時ニ其画影ヲ寫スナリ但シ二鏡相偏ルノ度ハ常ニ人目ノ視軸ノ角度ヨリ大ナラシメ其距リモ亦從テ遠カラシム就中遠景ノ如キハ兩鏡ヲ數メートルノ距リニ置キ寫スナリ是レ兩鏡

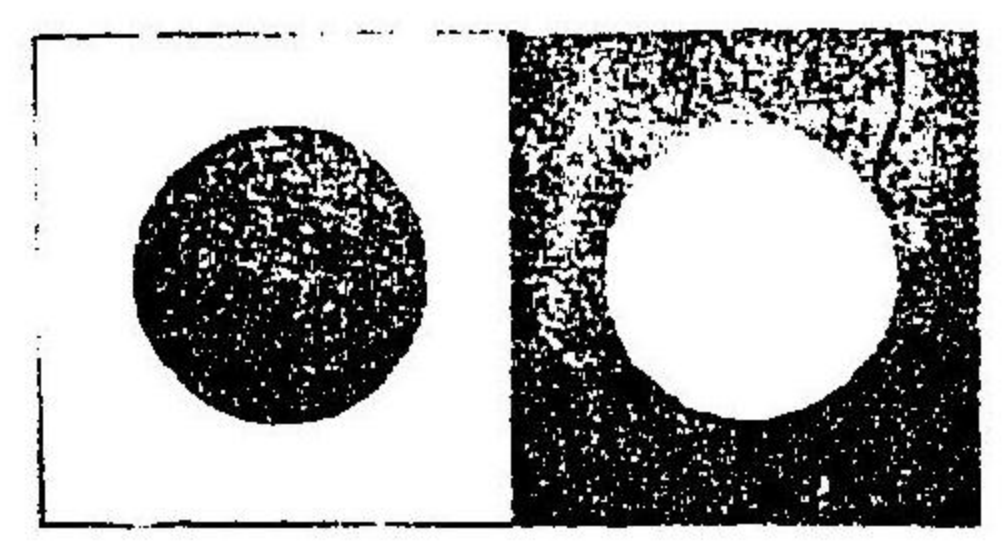


ノ角度大ナレハ其画愈真ニ迫レハナリ○ヘルムホルツ氏發明ノテリステリラスコウプハ遠景ヲ望ム枕眼鏡ノ義ニシテ直ニ景色ヲ望ムヲ得ルモノナリ乃此レヲ用ユレハ甚シキ遠景ト雖モ亦皆浮キ上ルカ如キヲ見ル故ニ以テ名トスルナリ乃第二十圖ノ如ク長板ノ左右ニ「カカ」ノ二鏡アリ遠物ノ光線ヲ受ケ反射シテ中ノ二鏡「キキ」ニ中リ復ヒ反射シテ人目ニ入ル「カカ」ノ二鏡相距ルコト愈遠カシテ「クカ」「クカ」ノ光線ノ角度愈大ナレハ景色愈近キヲ覺ユルナリ

第九十八回

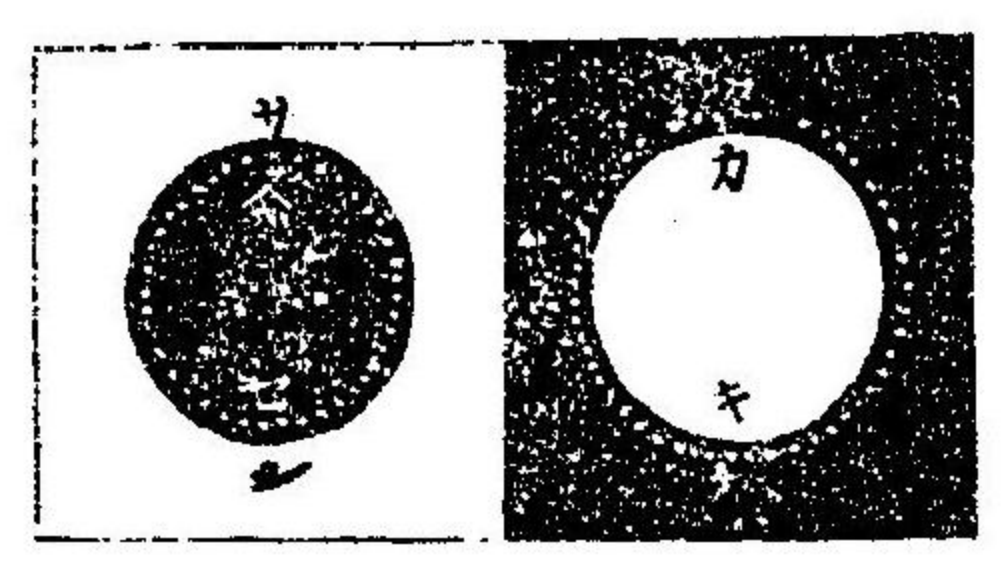
凡ソ一物体ヲ取リ或ル体ノ面ニ對シ視レハ其色
 ハ異ナルニ由テ其大小亦異ナルカ如キヲナスア
 リ例ハハ白物ヲ黒地上ニ置キ視レハ
 其實容ヨリ大ヲナシ又黒物ヲ白地上
 ニ置キ視レハ却テ小ヲナスカ如シ乃
 第二十一圖ノ如ク一ハ黒紙上ニ直徑
 五六センチメートルノ白圓ヲ画キ一ハ
 白紙上ニ同大ノ黒圓ヲ画キ之ヲ視レハ甲ハ乙ヨ
 リ其形大ナルヲ覺ヘ其黒白ノ度益異ナレハ其大

第二十一圖

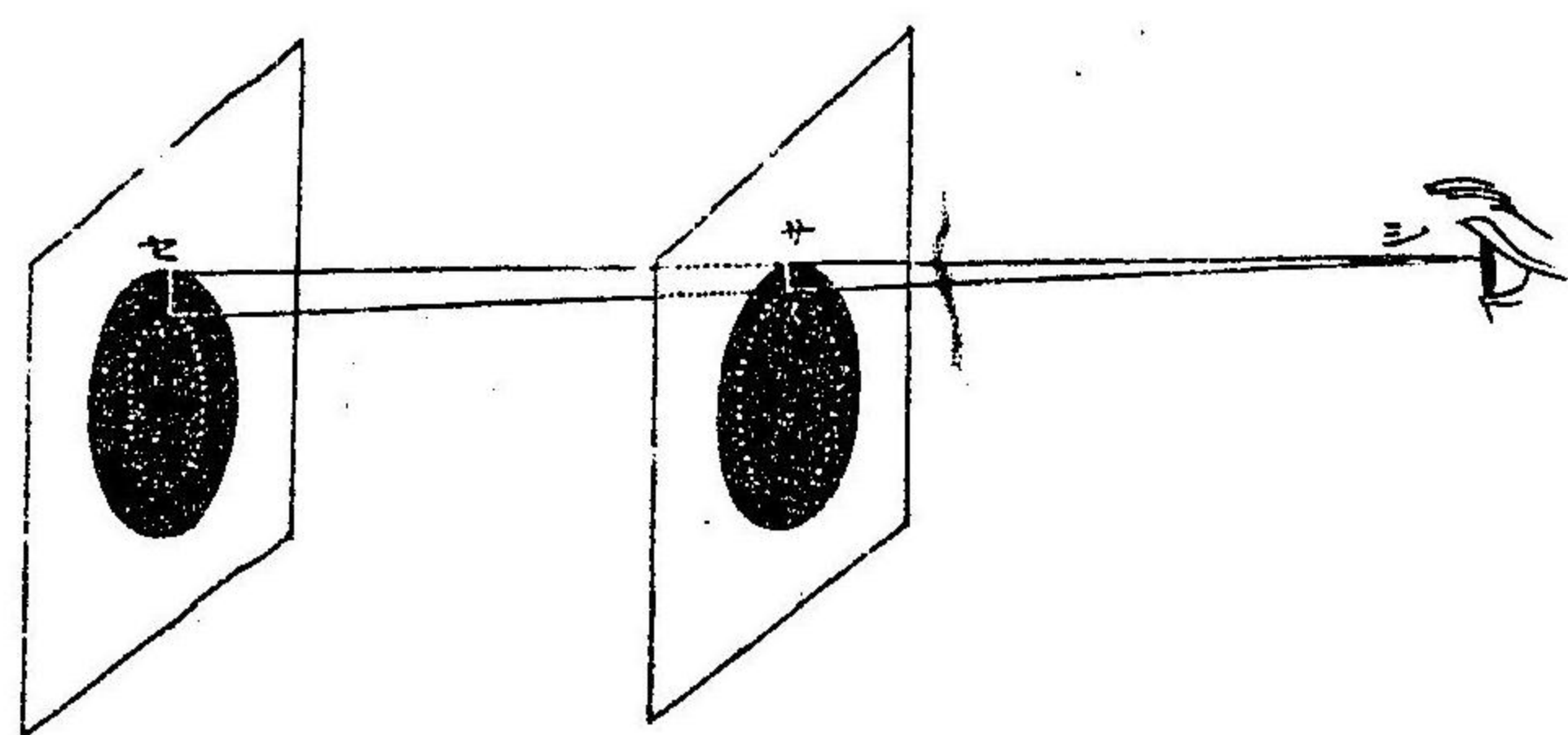


小ノ差益大ナリ上弦ノ新月ヲ望メハ其暗黒ノ部
 ヨリ其明白ノ部ノ大ナルヲ見ルモ亦此レト同理
 ナリ乃此發現ヲイルラヂエイシント云フ是レ全
 ク網膜ノ性ニ由テ起ルナリ乃光線集
 合シテ物体肖像ヲ網膜上ニ映スレハ
 只其抵ル、所ノ神經ノミナラス其周
 圍光線ノ及ハサル所ノ神經モ亦爲メ
 ニ感動スルナリ故ニ白物ヲ黒面上ニ
 置ケハ其真ニ網膜上ニ映スル所ノ肖像ハ第二十
 二圖ノカキノ如シト雖モ其白光周圍ノ網膜ニ感

第二十二圖



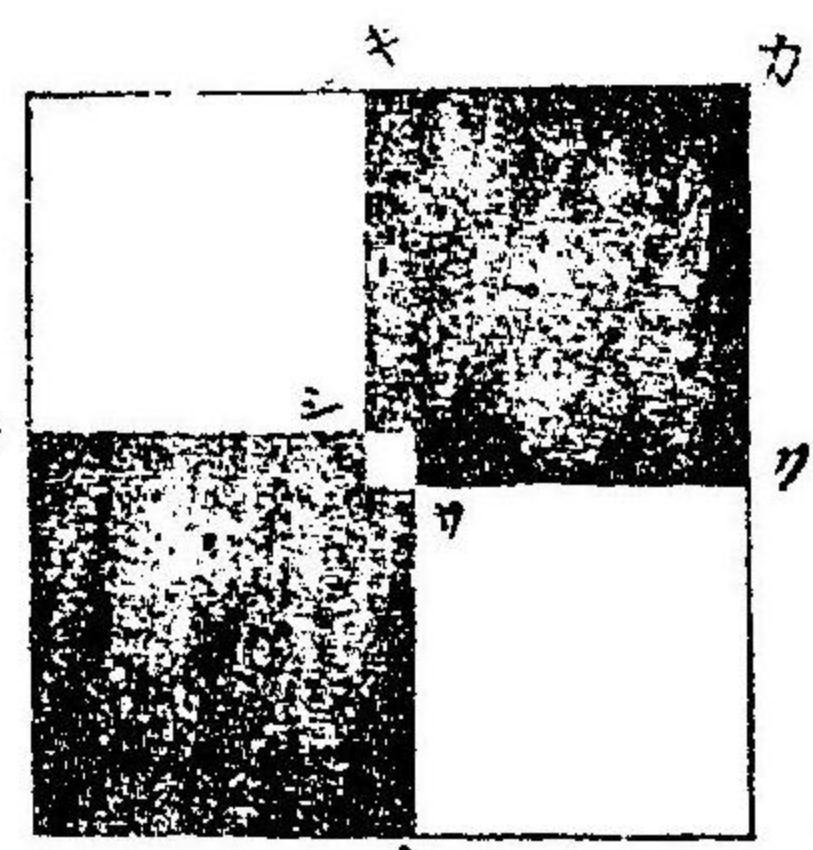
第二十三圖



シテ「クケ」ノ邊ニ至ル故ニ其大ナルヲ見ルナリ又
 黒物ヲ白地ニ置ケハ其眼中ノ肖
 像ハ「サシ」ノ如シト雖モ周圍ノ白
 光遙ニ黒色ノ部ニ感シテ「マセ」ニ
 至ル故ニ其体却テ小ナルヲ覺ユ
 ルナリ然レモ「イル」ヲ「ガイ」ニ
 ノ角度ハ遠近ニ由テ異ナルナリ
 シ例ハ第二十三圖ノ如ク一ノ
 距リニ於テ一体ヲ望ミ其「イル」
 「ガイ」ニ「シヨ」ノ角「サシ」ス
 ヲ五分ト

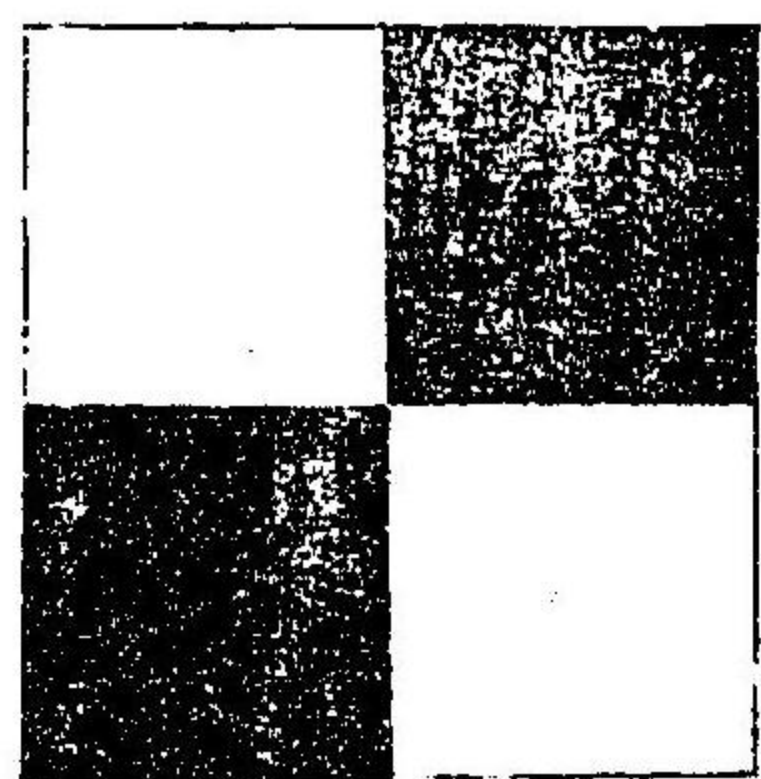
シ次ニ二ノ距リニ於テ之ヲ望メハ其視角減少シ
 テ初メハ二分一トトレモ其「イル」ヲ「ガイ」ニ「シヨ」ノ
 角「セ」シツハ尚五分ヲナスナリ但シ此發現ハ皆人
 目網膜ノ性質ニ關リテ異ナリ故
 ニ每人見ル所各同シカラス之ヲ
 相比ヘテ每人「イル」ヲ「ガイ」ニ「シヨ」
 ノ度ヲ測ラント欲セハ第二十四

第二十四圖



圖ノ如キモノヲ以テスヘシ乃凡ソ三四十センチ
 ヲトル平方ノ白紙ヲ取り之ヲ四分シテ其斜メニ
 相對スル所ノ二分ヲ黒クシ「カキ」カク等ヲシテ他

第二十五圖



ノ二分ノ白部ヨリ稍大ニシテ「キシ」サケノ二線及
 ビ「コシ」サケノ二線皆相錯ル其長サ四ミリメト
 ルナラシメ兩黒相接スルノ間ニ「シサ」ノ小方白部
 ヲ殘ス乃近ク之ヲ望メハ明ニ之
 ヲ見ルモ漸ク遠ケレハ遂ニ見ル
 能ハサルニ至リ且ツ「キシ」サケモ
 皆一直線ヲナシ恰モ第二十五圖
 〃ニクレンニ至ルヘシ但シ其一直線ヲナスノ距
 リハ人毎ニ各異ニシテ通常大抵二メトルヨリ三
 メトルノ間ニ在リト雖モ此性最モ弱キ人ニ至テ

ハ更ニ遠キヲ要スルナリ乃前一云ヘル如ク「キシ」
 「サケ」ノ二線相錯リ入ル「四」ミリメトルナルヲ以
 テ其一直線ヲナスニ至レハ「イ」ルラガエイ「シヨ」ハ
 各二「ミ」リメトルナルヲ知ル故ニ人目ト其紙トノ
 距リヲ測レハ直ニ「イ」ルラガエイ「シヨ」ノ角度ヲ知
 ルヲ得ヘシ凡ソ網膜一タヒ光線ニ感スレハ光線
 去ルノ後モ尚暫ク其感ヲ保ツナリ例ヘハ木柱ノ
 末ニ火ヲ點シ他ノ一端ヲ持チ急ニ之ヲ振り廻ハ
 セハ其點々相續クヲ見スシテ一輪狀ヲナシ及ヒ
 兩降レハ點滴ヲ見スシテ糸條ヲナスヲ見ルカ如

シ又第二十六圖、如ク圓紙ノ表面ニ縱線ヲ引キ

裡面ニ横線ヲ引キ糸ヲ以テ其

縁カキヲ繫キ其兩端ヲ持テ

速ニ之ヲ廻セハ〔ク〕ノ如ク其線

十字ヲナスヲ見ル是レ皆初メ

網膜上ニ一像ヲ映シ其感未タ

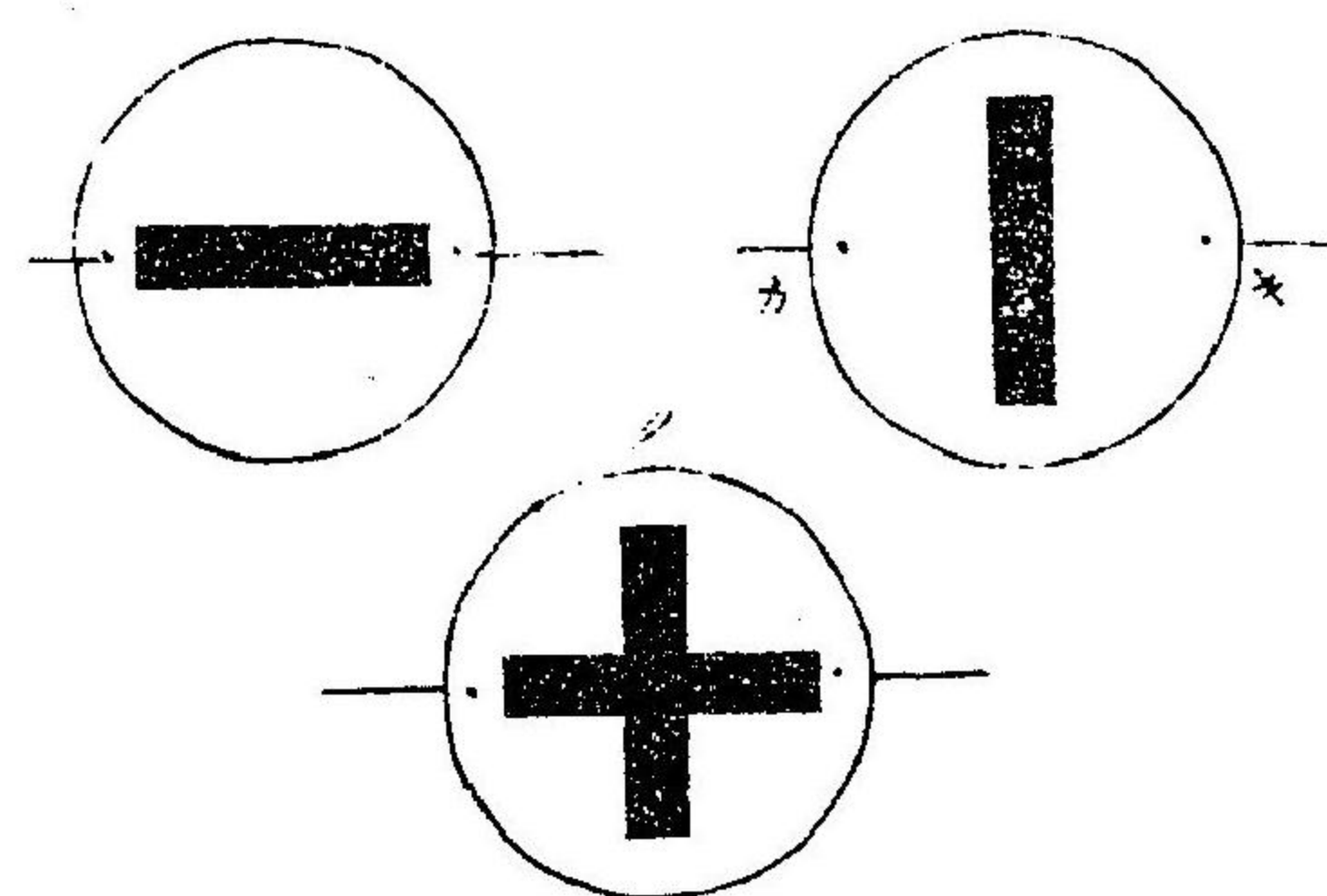
消エサル内ニ後ノ光來リ前後

相合スルニ因テ生スルナリ前

ニ示ス所ノ七色ヲ画キタル圓板ヲ急轉シテ其白

色トナルヲ見ルモ亦同理ナリ其實ニ然ルヲ證セ

圖六十二第



ント欲セハ暗室ニ於テ速ニ此圓板ヲ轉シ電火ヲ

以テ照セハ其七色光彩分明ニ視別ルヲ得ヘシ是

レ電火ハ其生滅極メテ速ニシテ車ヲ廻ハスニ至

テ急ナルモ一電火ノ間ニ其位置ノ易ハルヲ覺エ

サルカ故ナリ但シ光線網膜ニ中テ之ニ感動ヲ起

スハ多少時刻ヲ要ス例ヘハ銃丸ノ眼前ヲ過ルハ

人能ク之ヲ見ルヲ得サルカ如シ是レ過キ去ル

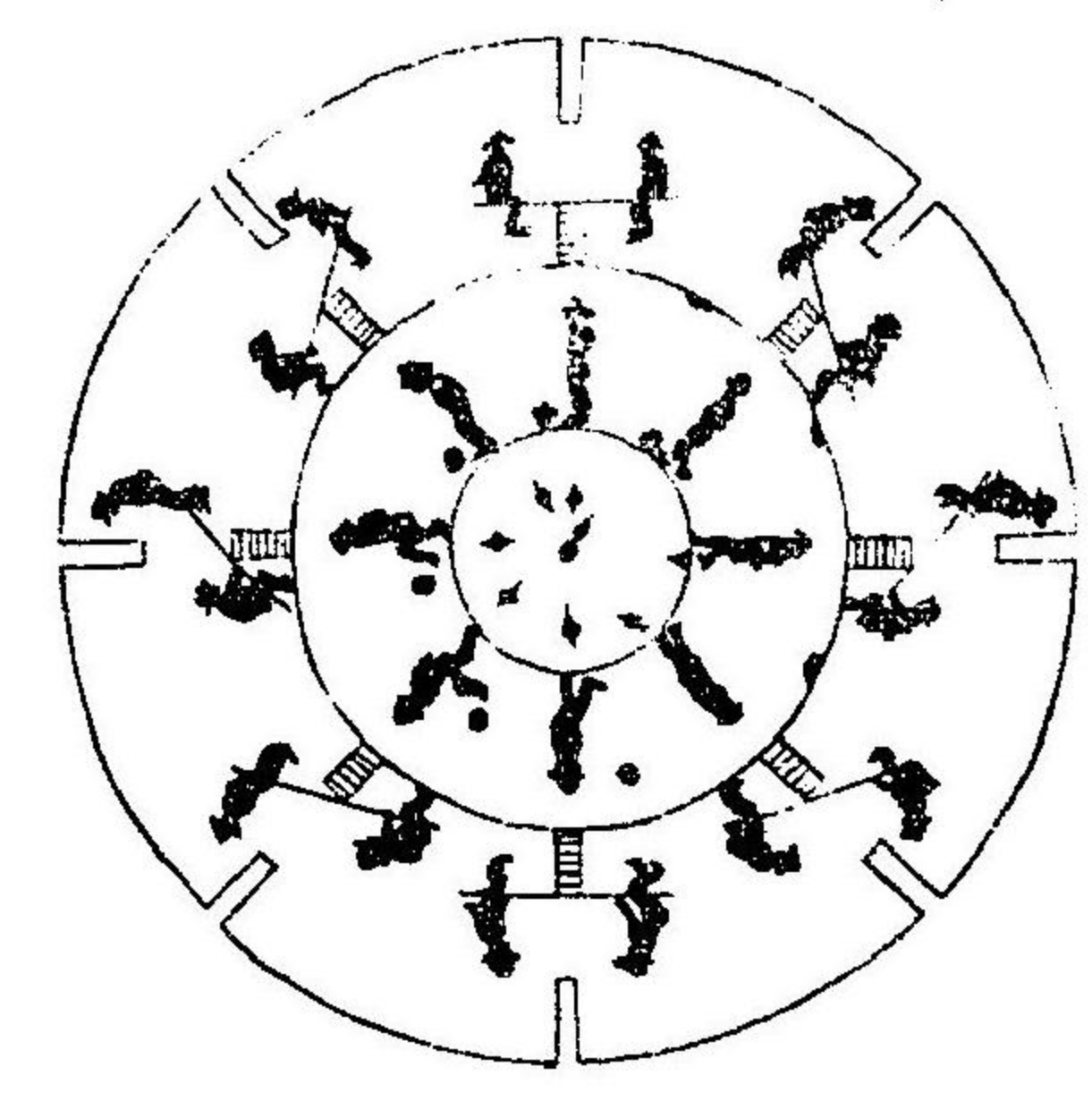
テ極メテ速ニシテ視神經ニ感スルノ暇ナキナリ

然シ前説ノ如ク電火ハ其迅速ナルヲ譬フルニ物

ナキカ如シト雖モ其光モ亦極メテ強キヲ以テ能

ク人目ニ感スルナリ ○物体既ニ去ルモ暫時網膜
上ニ肖像ノ感ヲ留ルノ理ニ基キ種々ノ巧ナル玩

第二十七圖

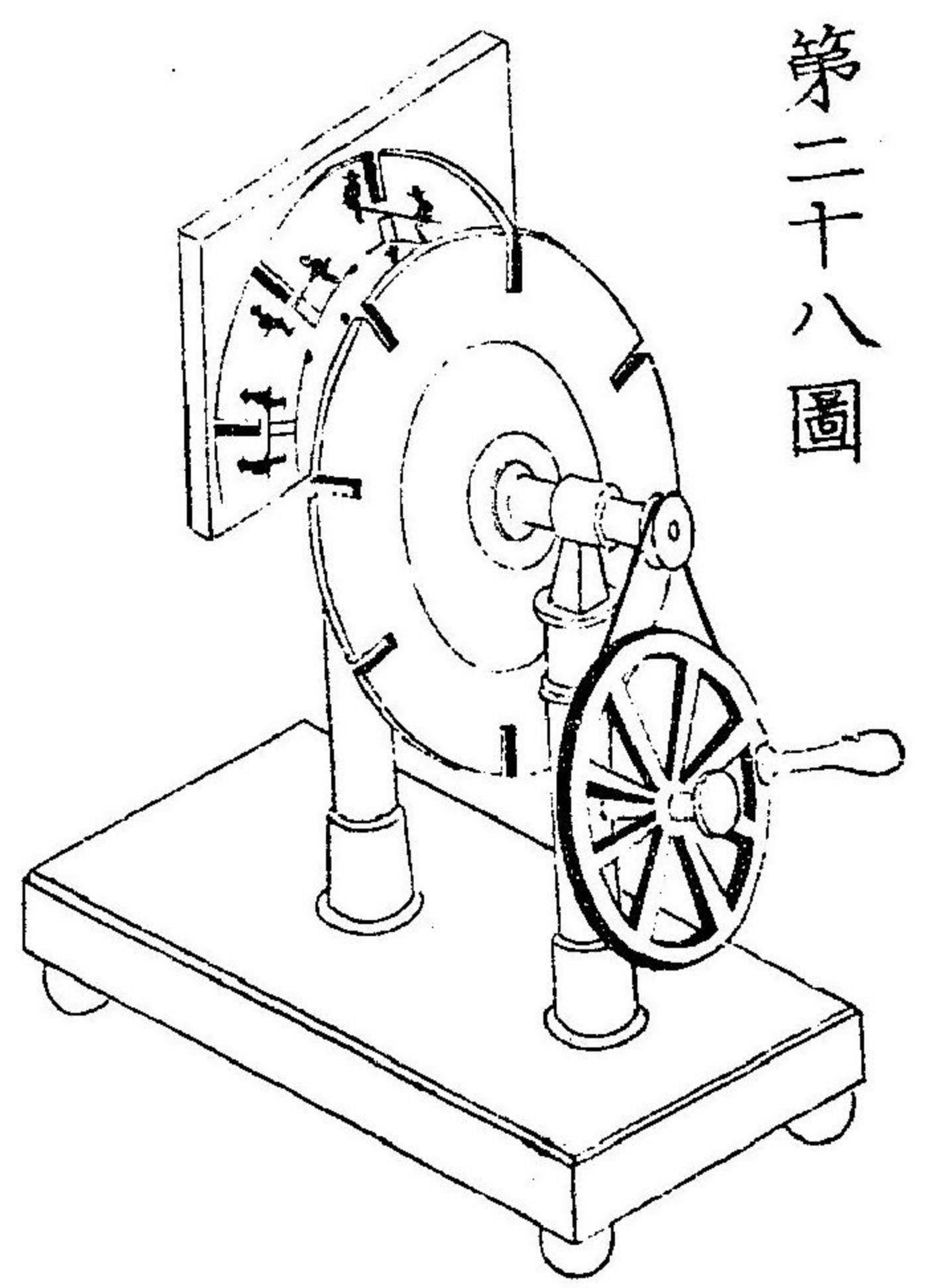


テ速ニ廻ハシ人其圓板ノ後ニ在テ其隙ヨリ鏡ニ
映スル所ノ画ヲ望メハ其形速ニ移リ變ハルヲ覺

弄器ヲ作レリ就中ソトマト
ロウプナルモノアリ乃第二
十七圖ノ如ク圓板ノ周リニ
一体ノ異ナリタル形ヲ画キ
其間ニ細キ隙ヲ穿テ第二十
八圖ノ如ク之ヲ平鏡ニ對シ

ハ實ニ奇觀トスルニ足レリ ○光線消ヘテ後網膜
上ニ感ヲ留ムルノ久

第二十八圖



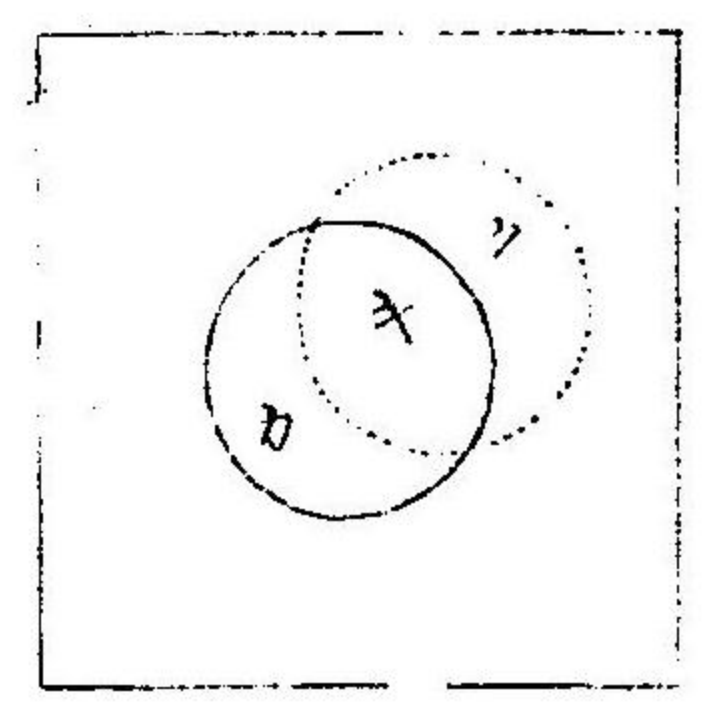
テ速ニ目ヲ閉ツレハ尚暫ク其明カナルヲ見ルカ
如シ又目ヲ閉テスシテ白色ノモノヲ見レハ其黒

近ハ其光ノ強弱ニ係
ハリテ異ナリ乃其初
メノ光線益強ケレハ
其感ノ留マルト益久
シ例ヘハ室外ノ強光
ニ對シ窓ノ障子ヲ見

白前ト相反スル所ノ像ヲ見ルヘシ例ハハ玻璃障
子ヲ透シテ空ヲ望ミ急ニ室内ノ白壁ヲ視レハ尚
障子ノ像ヲ見ルト雖モ周リノ骨格ハ白色ニシテ
其間ハ却テ暗キヲ覺ユルナリ是レ初メ強キ光ヲ
受ル所ノ神經ハ大ニ疲ル、故後ニ白壁ノ光ニ感
スルコト少クシテ其暗キヲ見ル其然ラサル所ハ白
色ヲ見ルナリ此ノ如キモノヲ偶生スルノ像ト云
フ又時トシテ光彩ヲ見ルコトアリ乃日ヲ望ミ或ハ
燭火ヲ視誥メ急ニ目ヲ閉ツレハ尚其形ヲ見ルト
雖モ其色次第ニ赤黄青等ニ易ハリ終ニ消ユルナ

リ又目ヲ閉ナスシテ白色ノ所ヲ視レハ其色ノ順
序前ト反ス亦皆網膜ノ疲レニ由ルナリ例ハハ白
紙上ニ赤紙ヲ張ルコト第二十九圖ノ如クシテ強ク

第二十九圖

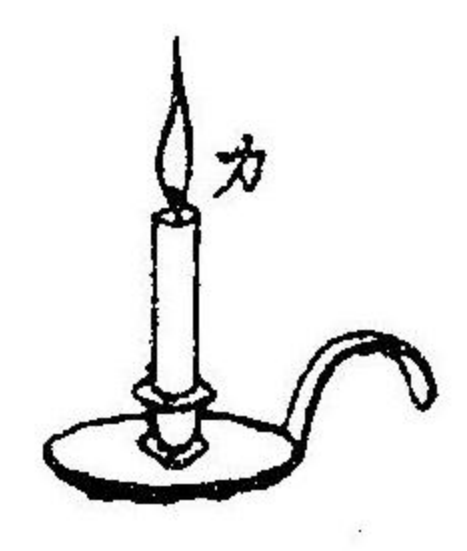


照シ暫ク之ヲ視誥レハ初メハ強キ
赤色ヲ見ルト雖モ神經漸ク疲レ其
色漸ク淡キヲ覺ユ是ニ於テ少シク
目ヲ一方ニ偏ヨラシメ唯赤紙ノ一

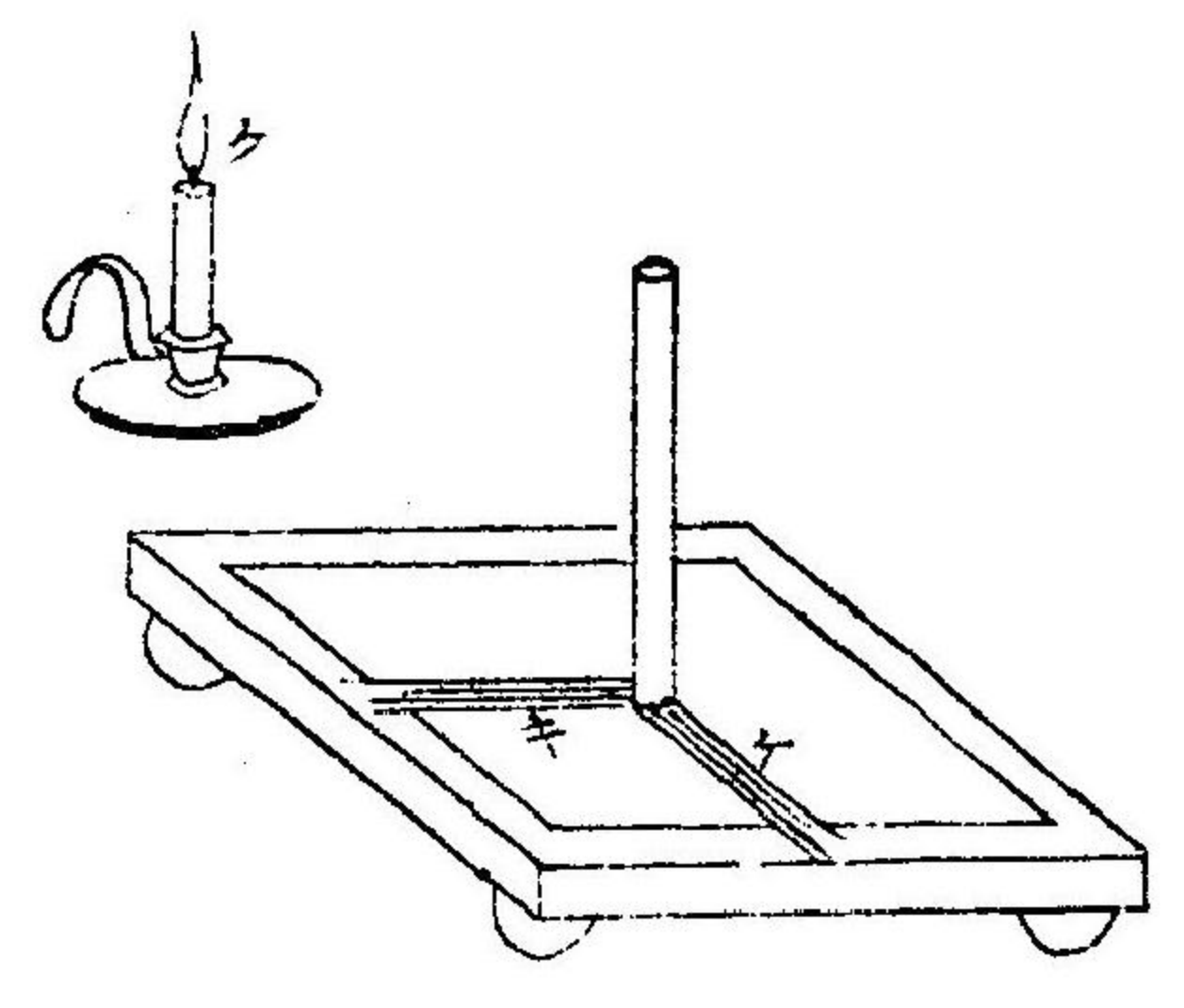
部ヲ視ル如クスレハ「キ」ノ所ハ尚弱キ赤色ヲ見ル
ト雖モ「カ」ノ所ヲ視ル網膜ハ未タ疲レサルカ故ニ
其赤色甚々鮮カニシテ「ク」ハ綠色ヲ見ルナリ是レ

其神經初メ赤光ニ由テ疲ル、故紙ノ白光ヲ視ル
モ其内ノ赤光ニ感スルヲナクシテ残りノ光乃緑
光ヲ見ルナリ故ニ又青色ノ紙ヲ以テスレハ橙色
ヲナシ又黄紙ナレハ紫色ヲナス等ノ如ク常ニ其
餘色ヲ見ルナリ但シ網膜ノ疲ルハ諸色大ニ異
同アリ乃ゾプリズムヲ以テ燭火ヲ透シ視レハ初メ
七色ヲ見ルト雖モ神經疲ルニ至レハ其赤色先
ツ消エ橙黄亦次第ヲ逐テ消エ終ニ白光ノミヲ殘
ス但シ其光益強ケレハ其疲ル、ヲ益速ナリ故ニ
プリズムヲ以テ日ヲ望メハ須臾ニシテ七色忽チ

消失ス又物体ノ色ハ其之ト相比フル所ノ色ニ由
テ異ナルヲ致スヲ見ルヲアリ



第三十圖



火ヲ以テ之ヲ照セハ復タ[キ]ニ暗影ヲ生スルヲ見

例ハハ灰色紙ノ小片ヲ黑紙上
ニ置ケハ白色トナリ白紙上ニ
置ケハ黑色トナルカ如シ第三
十圖ノ如ク柱ヲ白紙上ニ立テ
一燭火[カ]ヲ以テ之ヲ照セハ[キ]
ニ暗影ヲ生スルノミニシテ他
ハ皆明ナリト雖モ更ニ[カ]ノ燭

ル是レ[允]ハ其明ナルヲ前ニ異ナルコトナシト雖
 凡唯他所ノ明ナルコト前ニ倍加スルヲ以テ其暗
 キヲ覺ユルノミ又青色ノ玻璃上ニ白紙ノ小片ヲ
 張り強キ白光ニ對シ視レハ其紙變リテ橙色ヲナ
 シ赤色玻璃ナレハ綠色ヲナスヲ見ル如ク其紙常
 ニ玻璃ノ餘色ヲ現ハスモ神經ノ疲ルニ由ルナ
 リ凡ソ視神經ハ久シク一色ノ物ヲ視レハ忽チ疲
 ルコト此ノ如シ故ニ草花衣服ニ限ラス凡テ色
 ノ異ナルモノヲ集メ合スルニ務メテ餘色ノ物ヲ
 並フル様ニスレハ眼力疲レサルノミナラス二色

更ニ大ニ強クシテ一層ノ美ヲ増スヲ覺ヘ若シ然
 ラサレハ美色ノ物モ却テ惡色ヲナスヲ見ルナリ

理化日記二編卷之十二 窮理之部畢



敬兌書肆

三家村	出雲寺	紀伊國	和泉屋	和泉屋	山城屋	須原屋
佐平	萬次郎	源兵衛	市兵衛	金右衛門	佐兵衛	茂兵衛

